

八代市の人口の将来展望に係る意識調査結果

目 次

1. 調査の概要	1
2. 市民アンケート調査結果	2
2-1 属性	2
2-2 定住に係る意向	3
2-3 就業に係る現状・意向	10
2-4 結婚・出産・子育てに係る現状・意向	18
2-5 人口減少に係る現状認識	27
3. 学生アンケート調査結果	32
3-1 属性	32
3-2 卒業後の進路（居住地）に係る意向	33
3-3 就業に係る意向	38
3-4 結婚・出産・子育てに係る意向	39

1. 調査の概要

●八代市における人口の将来展望に係る意識調査として、「市民アンケート調査」、「学生アンケート調査」を実施した。

意識調査の実施概要

	市民アンケート調査	学生アンケート調査
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ●定住に係る意向の把握 ●就業に係る現状・意向の把握 ●結婚・出産・子育てに係る現状・意向の把握 ●人口減少に係る現状認識 ●八代市で必要と考える取組みの把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業後の居住地に係る意向の把握 ●就業に係る意向の把握 ●結婚・出産・子育てに係る現状・意向の把握
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 5 月 22 日時点で、住民基本台帳に記載のある 20 歳以上の者から無作為に抽出した <u>4000 人</u> ・ただし、合併前市町村毎に、人口により配分数を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・中九州短期大学 2 年生、熊本高等専門学校八代キャンパス 5 年生、市内全 7 高等学校 3 年生 ・調査票配布数 各学校 80～120 枚程度
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・郵送配布・郵送回収 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に直接依頼 ・各学校での直接配布・直接回収
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 6 月 10 日～6 月 25 日 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 6 月 10 日～6 月 18 日
回収状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1,685 票（回収率 42.1%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・821 票

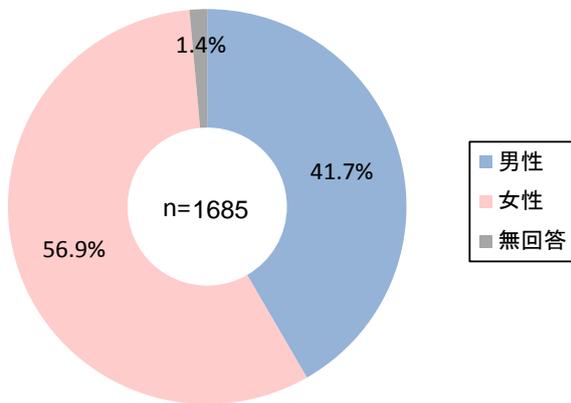
2. 市民アンケート調査結果

2-1 属性

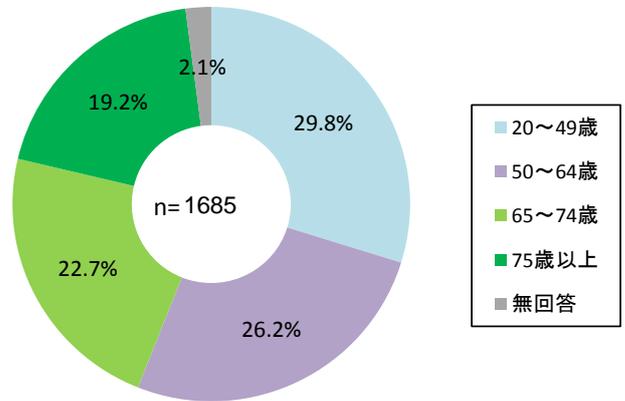
- 回答者の男女比は、男性 41.7%、女性 56.9%である。
- 年齢階層は、65 歳以上が 41.9%と回答者の約 4 割を占め、子育て世代である 20～49 歳は、29.8%である。
- また、合併前市町村毎に、人口によりアンケート調査票の配分数を設定したこともあり、回答者の居住地は、人口比に概ね一致している。

市民アンケート調査回答者の属性

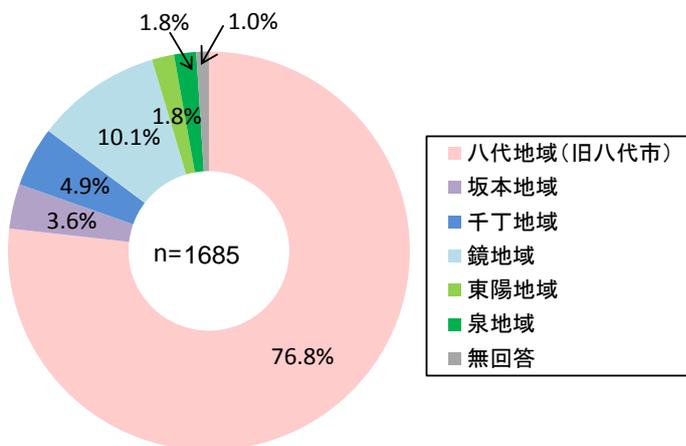
<性別（問1）>



<年齢（問2）>



<居住地（問6）>



地域	20歳以上人口※1	構成比
八代地域	82,367	76.0%
坂本地域	3,741	3.4%
千丁地域	5,821	5.4%
鏡地域	12,678	11.7%
東陽地域	1,999	1.8%
泉地域	1,832	1.7%
八代市計	108,438	100.0%

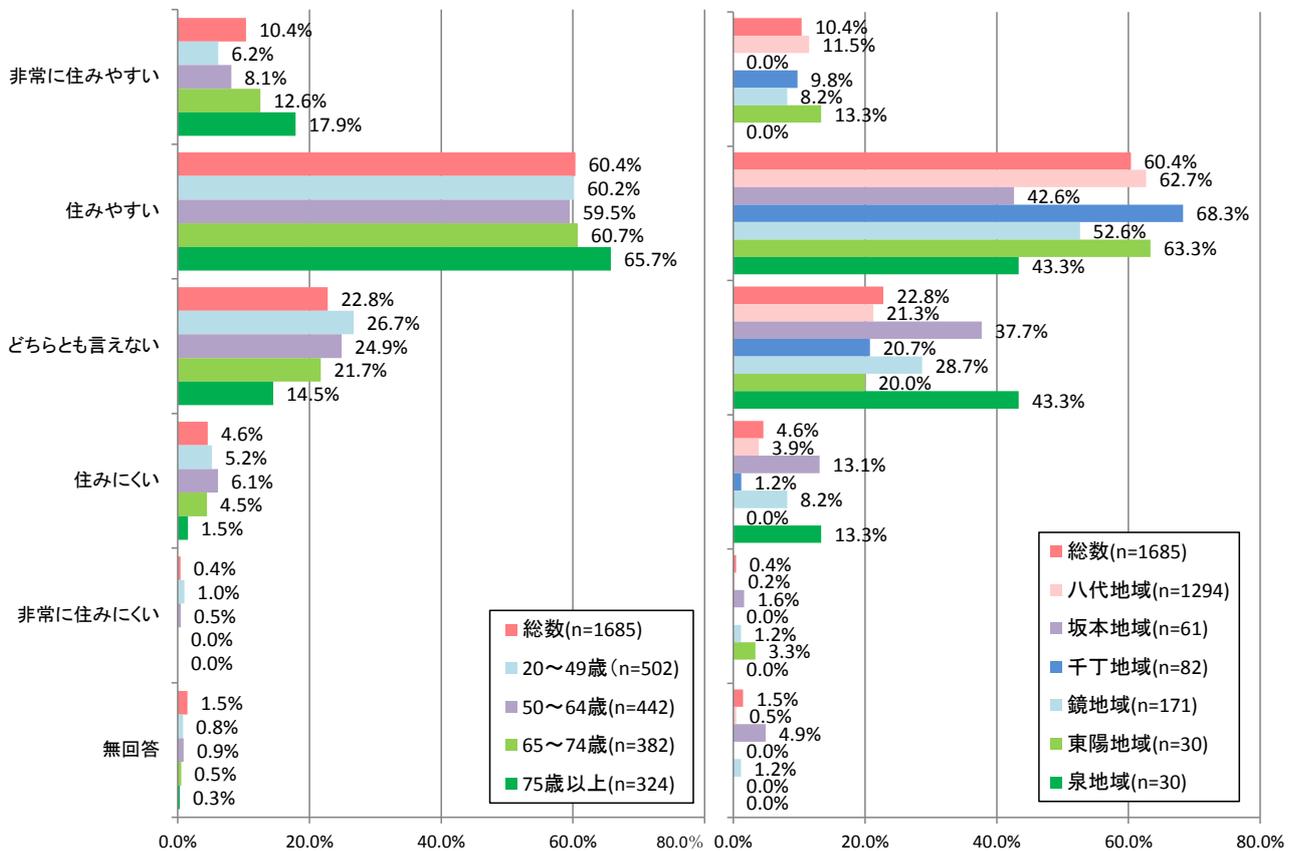
※1 住民登録人口(平成27年4月末現在)

2-2 定住に係る意向

(1) 八代市の住みやすさ

- 回答者全体の 60.4%は、「住みやすい」と回答しており、「非常に住みやすい」10.4%と合わせると、回答者の 7 割以上が、八代市を住みやすいと評価している。
- 年齢別にみると、年齢階層が高くなるほど、「非常に住みやすい」の割合が増加する一方、年齢階層が低くなるほど、「どちらとも言えない」及び「住みにくい」の割合が増加する傾向にある。
- また、居住地別にみると、八代地域、千丁地域、東陽地域において「住みやすい」の割合が高く、坂本地域、鏡地域、泉地域では、「どちらとも言えない」及び「住みにくい」の割合が高くなっている。

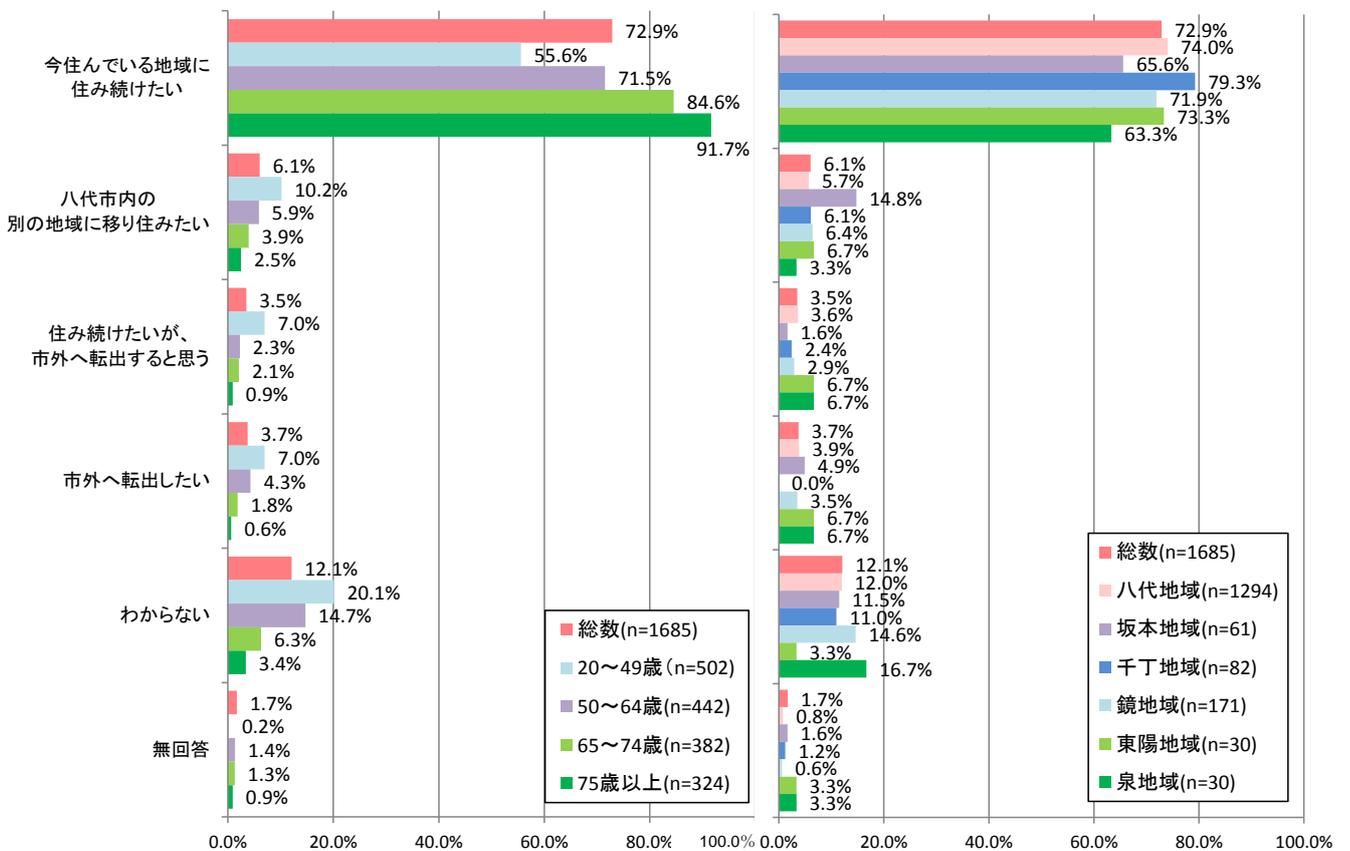
八代市の住みやすさ（問7）



(2) 八代市定住意向

- 回答者全体の72.9%が、「今住んでいる地域に居住したい」と考えている。
- しかしながら、20～49歳については「今住んでいる地域に居住したい」と考えている回答者は55.6%にとどまり、14.0%は「住み続けたいが、市外へ転出すると思う」もしくは「市外へ転出したい」との意向を示している。
- 居住地別には、坂本地区及び泉地域において、「今住んでいる地域に住み続けたい」の割合が低く、坂本地区では、「八代市内の別の地域に移り住みたい」と指摘する回答者の割合（14.8%）が、他地域の2倍になっている。

八代市の今後の定住意向（問8）

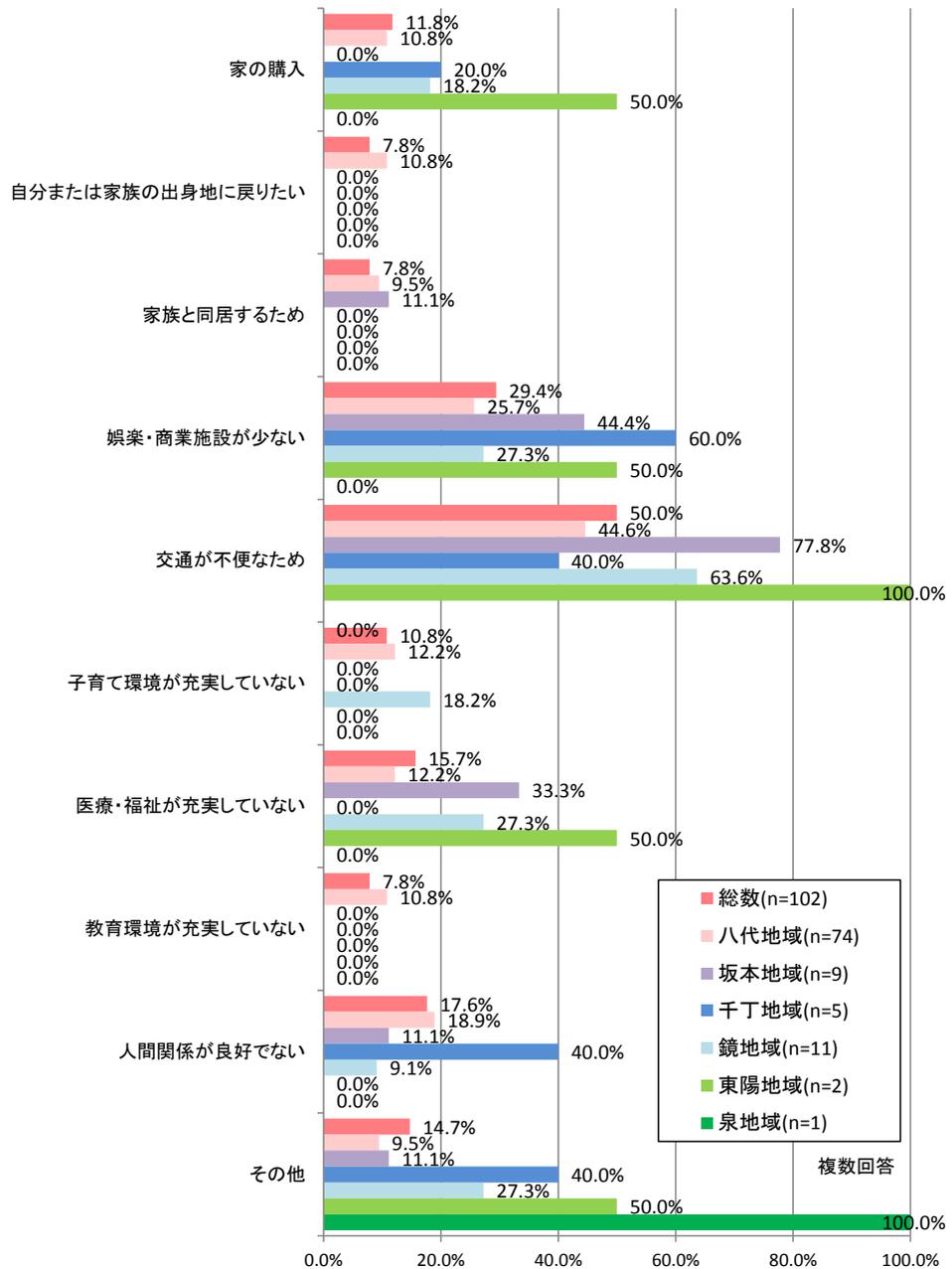


(3) 転出理由

1) 八代市内の別の地域に移り住む理由

● 「八代市内の別の地域に移り住みたい」の割合が高かった坂本地域については、その理由として、「交通が不便なため」(77.8%)、「娯楽・商業施設が少ない」(44.4%)、「医療・福祉が充実していない」(33.3%)が多くなっている。

八代市内の別の地域に移り住みたい理由（上位10項目）（問9）



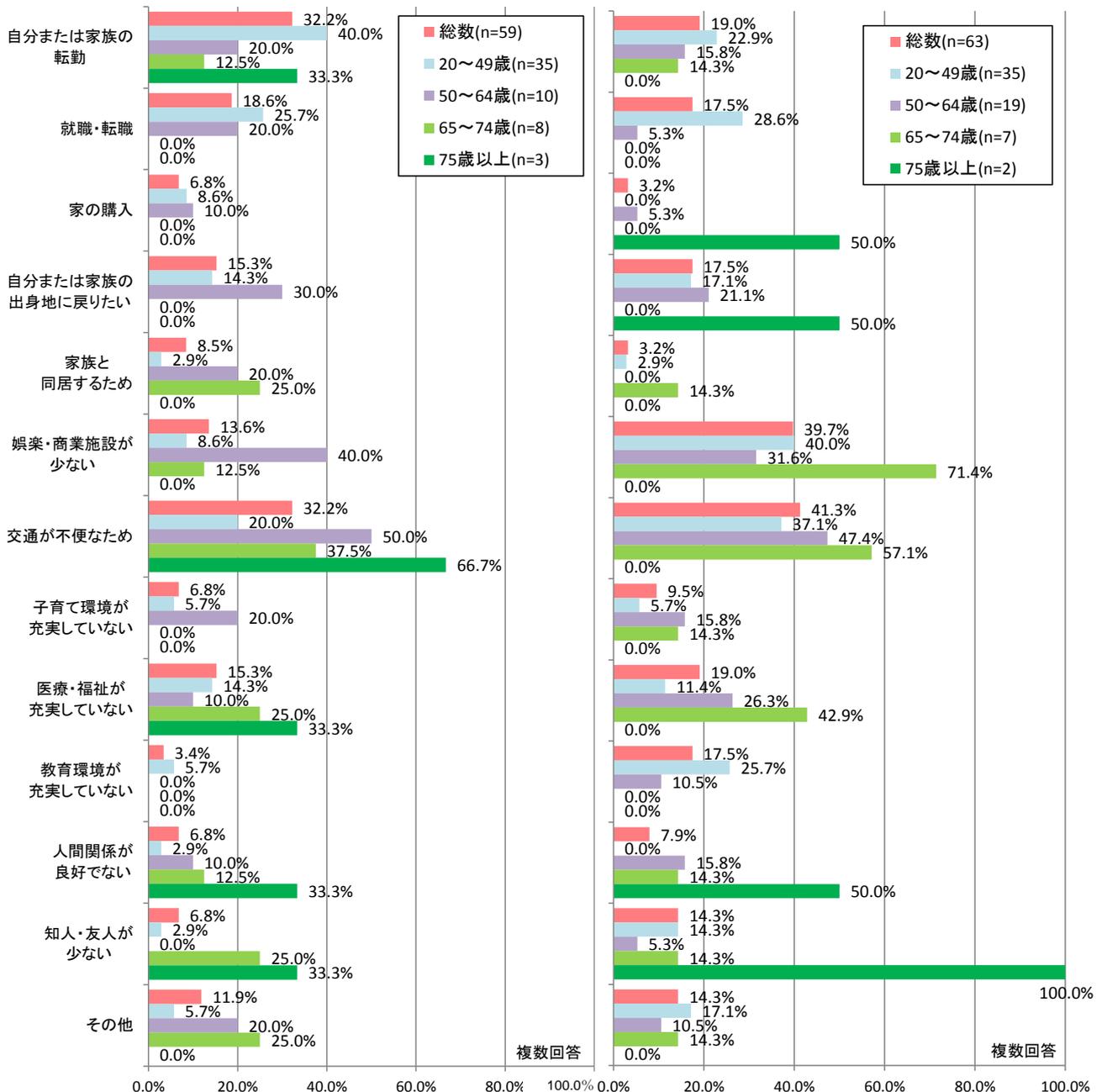
2) 八代市外への転出理由

- 「住み続けたいが、市外へ転出すると思う」回答者の転出理由は、「自分または家族の転勤」及び「交通が不便なため」が 32.2%と最も多く、「交通が不便なため」は、年齢階層が高くなるほど回答割合が高まっている。
- また、「市外へ転出したい」回答者の転出理由は、「交通が不便なため」(41.3%)、「娯楽・商業施設が少ない」(39.7%) に加え、20～49 歳では「教育環境が充実していない」(25.7%) との回答が多い。

八代市外へ転出したい理由（上位 10 項目）（問 9）

<住み続けたいが、市外へ転出すると思う>

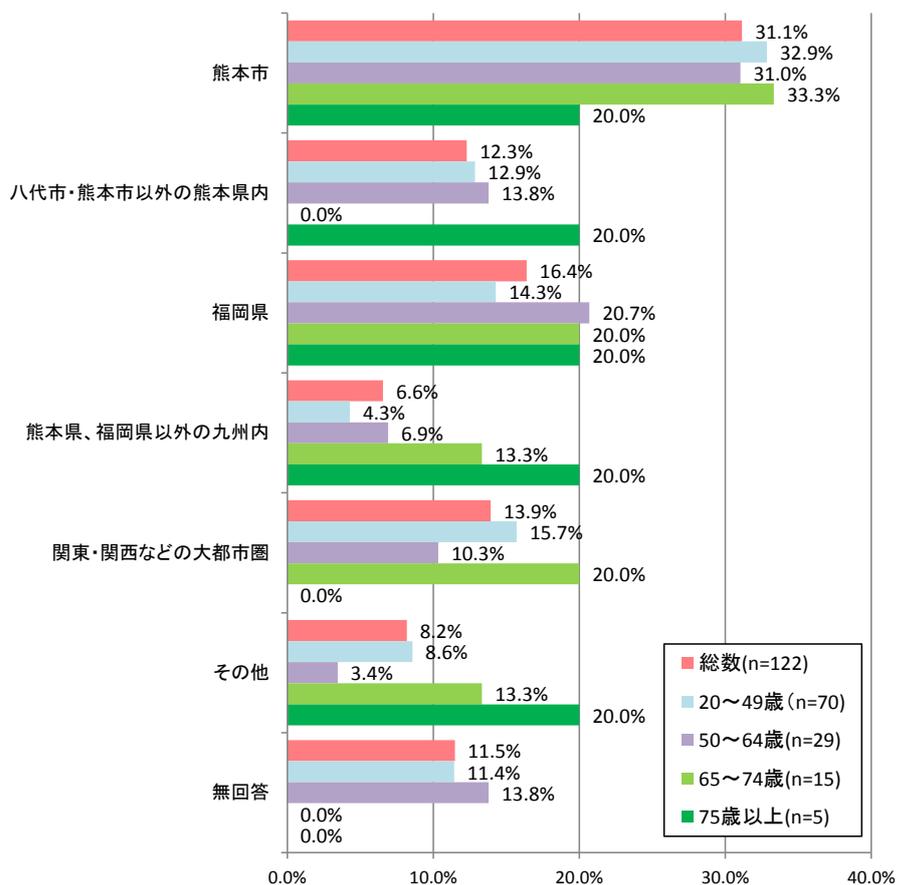
<市外へ転出したい>



(4) 転出先

●転出する、転出したいと考えている地域は、「熊本市」が最も多く 31.1%であり、次いで「福岡県」(16.4%)、「関東・関西などの大都市圏」(13.9%)である。

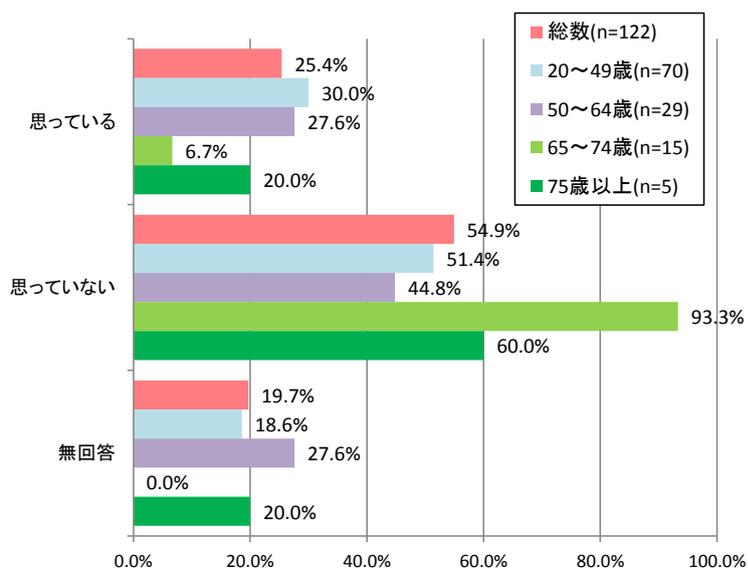
転出する、または転出したい地域 (問 10)



(5) 将来の八代市居住意向

- 八代市外に転出する、転出したい回答者のうち、将来八代市に住みたいと「思っている」回答者は、25.4%である。
- 一方、65歳以上の高齢者ほど、将来八代市に住みたいと「思っていない」回答者の割合が高まっている。

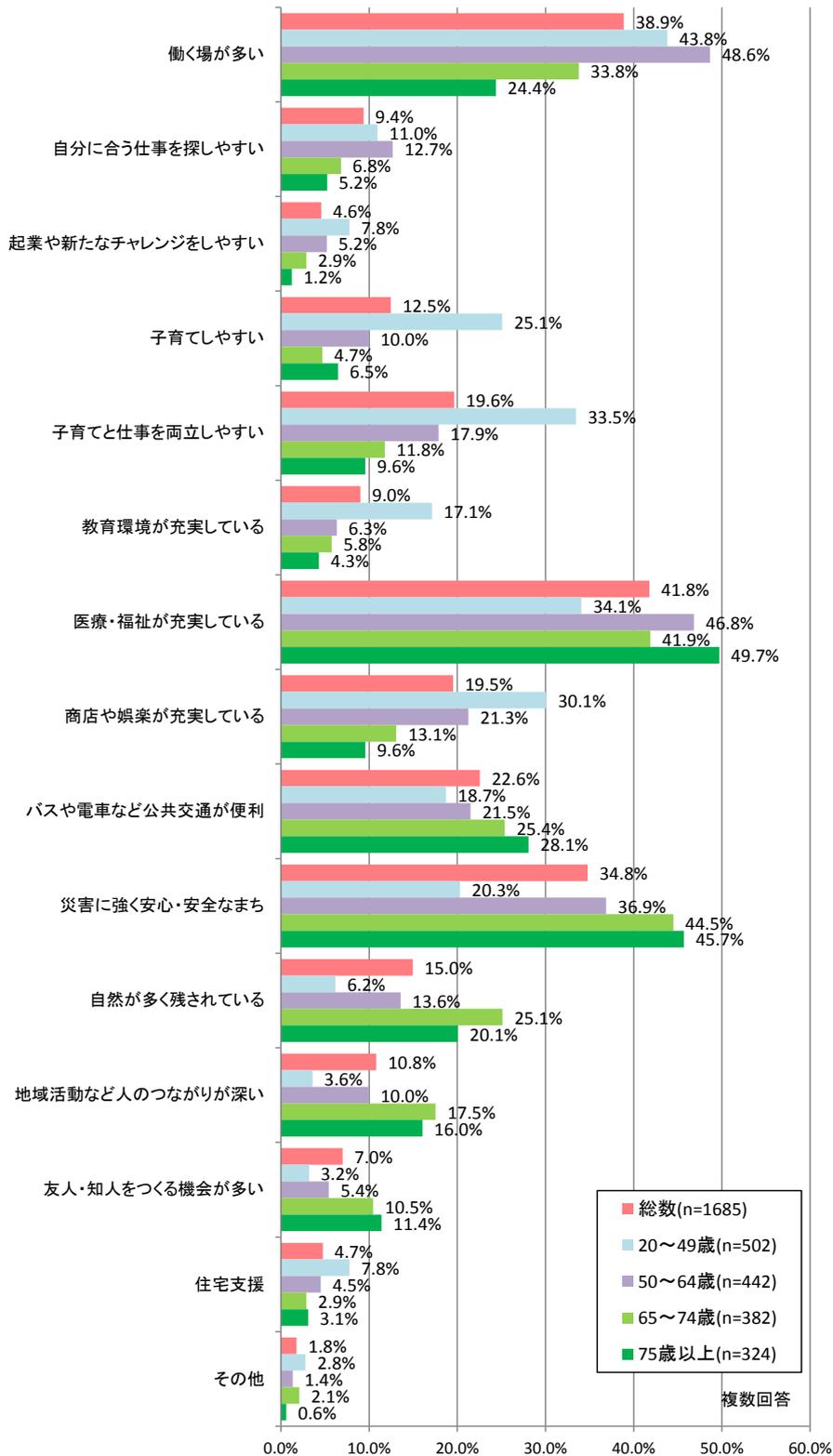
将来的な八代市居住意向（問11）



(6) 八代市に住むために必要な環境・支援

●八代市に住むために必要な環境・支援としては、全年齢では、「医療・福祉が充実している」(41.8%)、「働く場が多い」(38.9%)、「災害に強く安心・安全なまち」(34.8%)が多いものの、20～49歳では「子育てと仕事を両立しやすい」(33.5%)、「商店や娯楽の充実」(30.1%)、「子育てしやすい」(25.1%)に対する回答も多い。

八代市に住むために必要な環境・支援（問12）



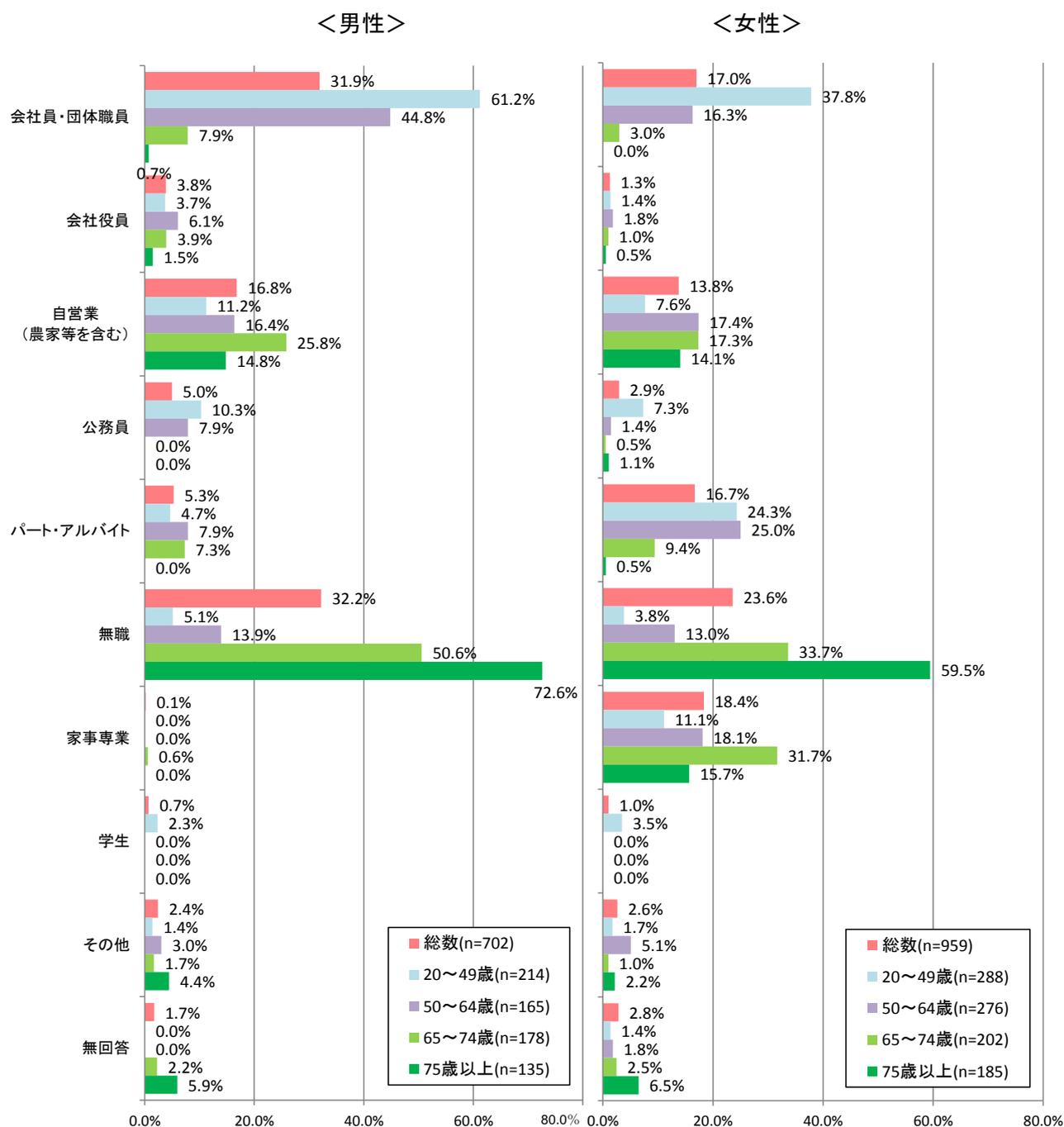
2-3 就業に係る現状・意向

(1) 就業の現状

1) 職業

- 男性の31.9%は「社員・団体職員」である。
- 女性については、17.0%が「社員・団体職員」、16.7%が「パート・アルバイト」と、男性に比べ「パート・アルバイト」の割合が高い。また、「家事専業」も18.4%となっている。
- なお、「無職」の割合は、男女ともに、20～49歳で5%程度、50～65歳で15%程度である。

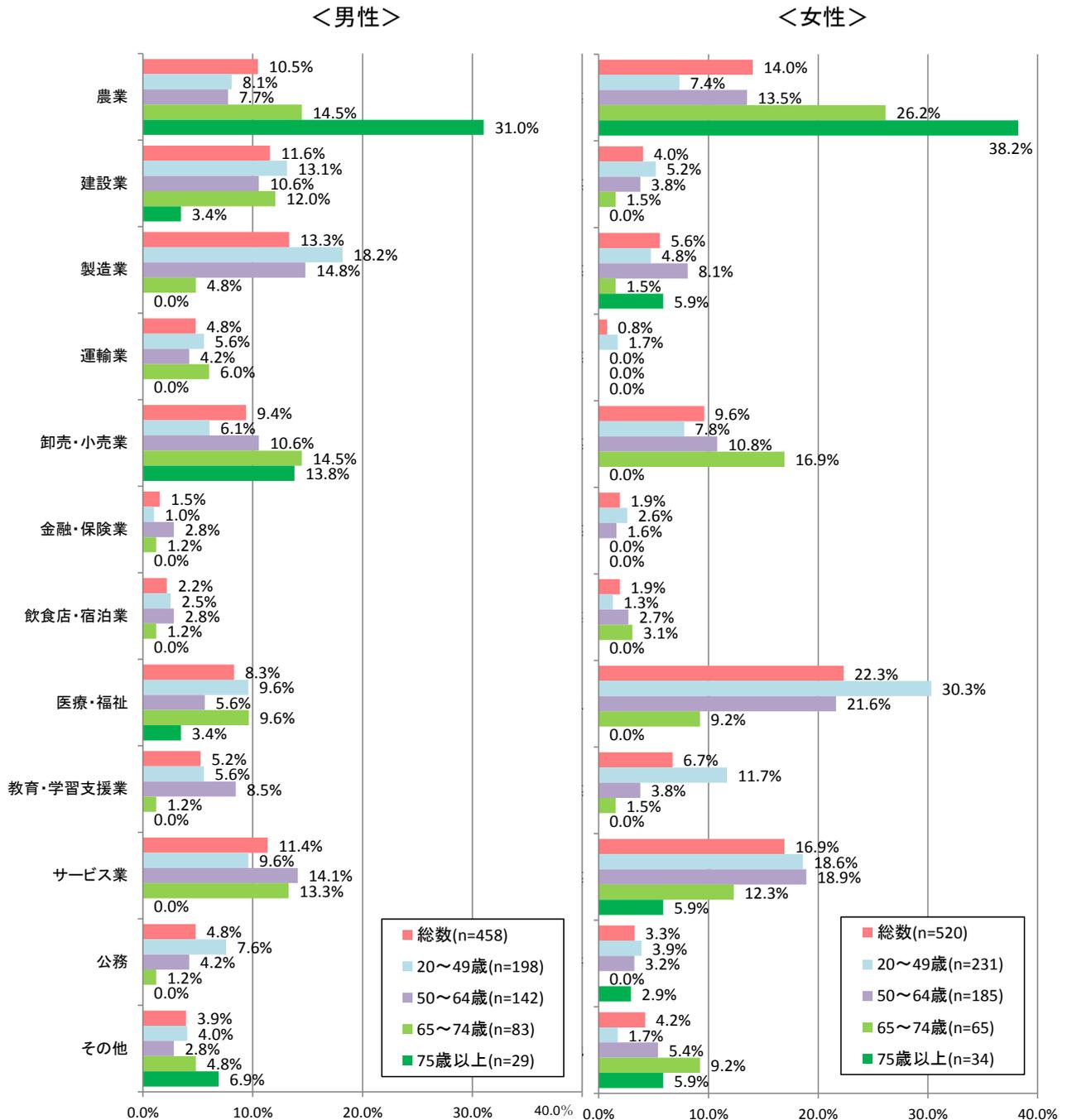
職業（問13）



2) 勤務先の業種

- 勤務先の職業としては、男性は、「製造業」(13.3%)、「サービス業」(11.4%)、「農業」(10.5%)の割合が高くなっている。
- 女性は、「医療・福祉」(22.3%)、「サービス業」(16.9%)、「農業」(14.0%)の割合が高く、特に、「医療・福祉」については、20～49歳の約3割が就業している。
- また、「農業」については、男女ともに、65歳以上の高齢者における就業割合が高い。

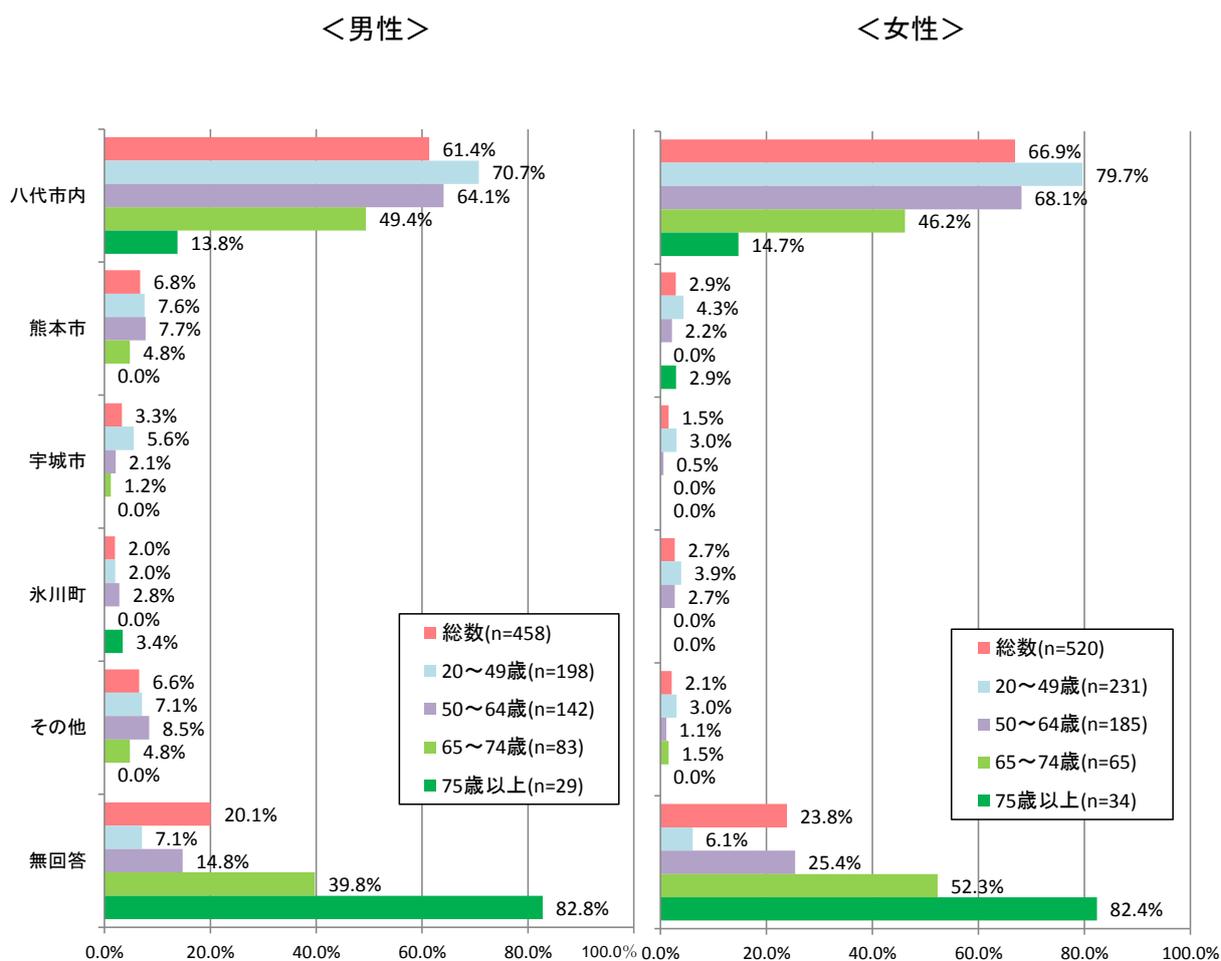
勤務先の業種（上位10項目）（問14）



3) 通勤先

- 男性の61.4%、女性の66.9%が八代市内に通勤している。年齢別には、20～49歳の割合が高く、男性については70.7%、女性については79.7%が、八代市内勤務である。
- また、男性については、6.8%が熊本市、3.3%が宇城市と、女性に比べ市外への通勤者も多い。

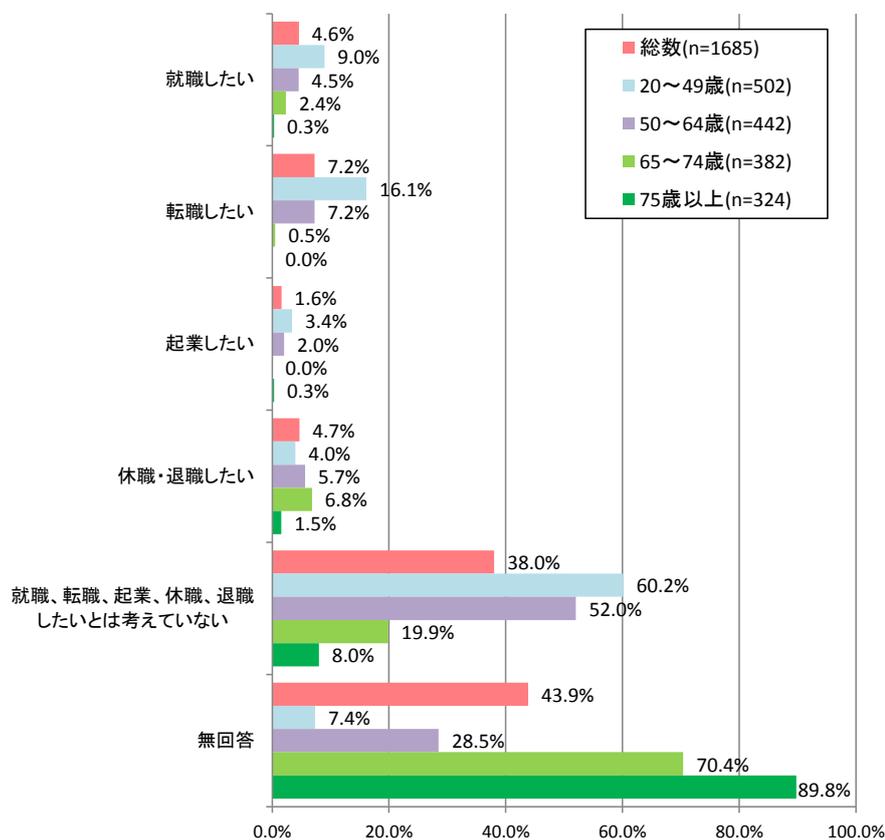
通勤先（問15）



(2) 就職・転職等の意向

●20～49歳については、60.2%は「就職、転職、起業、休職・退職したいとは考えていない」ものの、9.0%が「就職したい」、16.1%が「転職したい」との意向を有している。

就職、転職、起業または休職・退職の意向（問16）

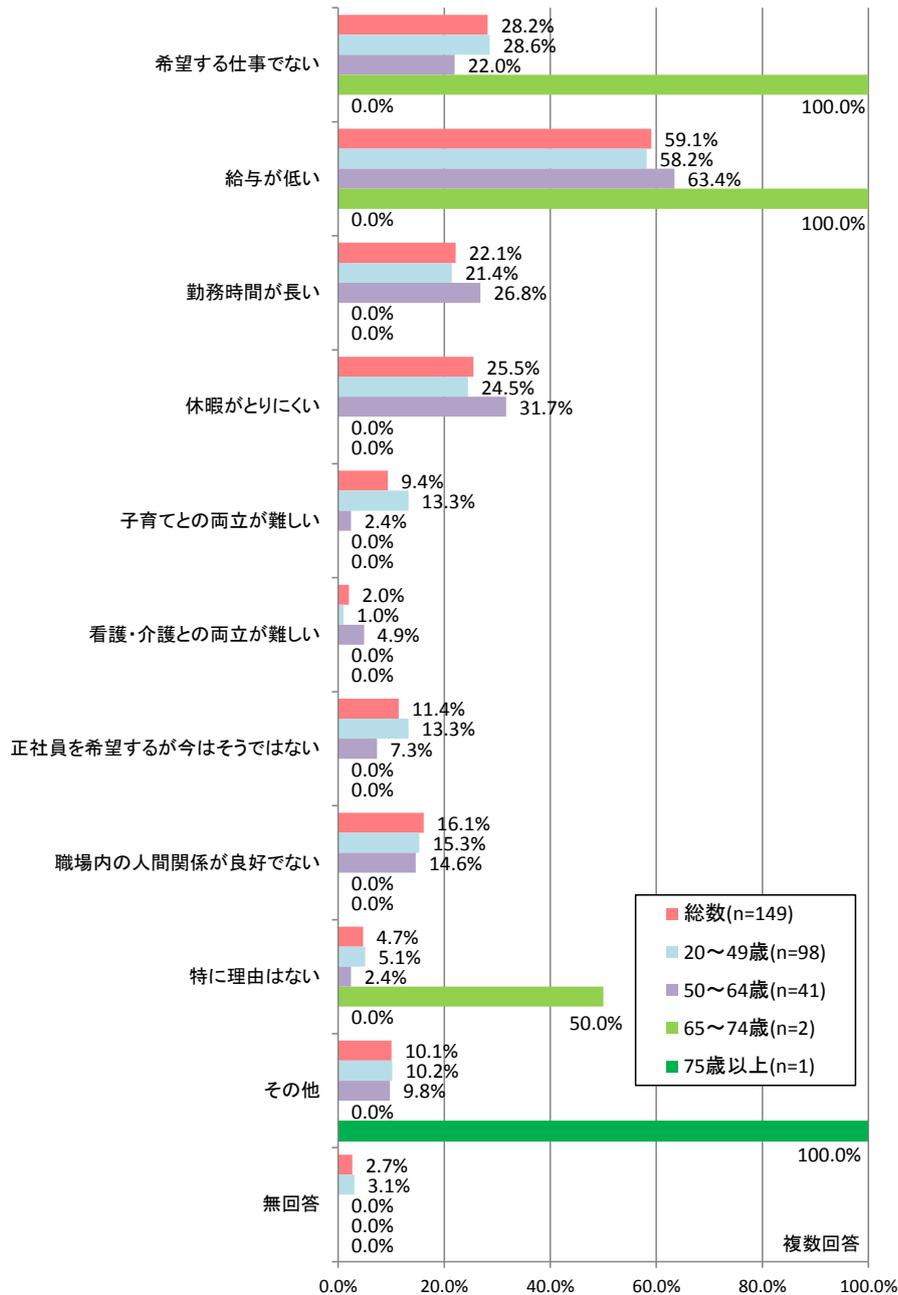


(3) 転職等をした理由

1) 転職、起業したい理由

●20～49歳における転職、起業したい理由としては、「給与が低い」(58.2%)が最も多く、次いで「希望する仕事でない」(28.6%)、「休暇がとりにくい」(24.5%)となっている

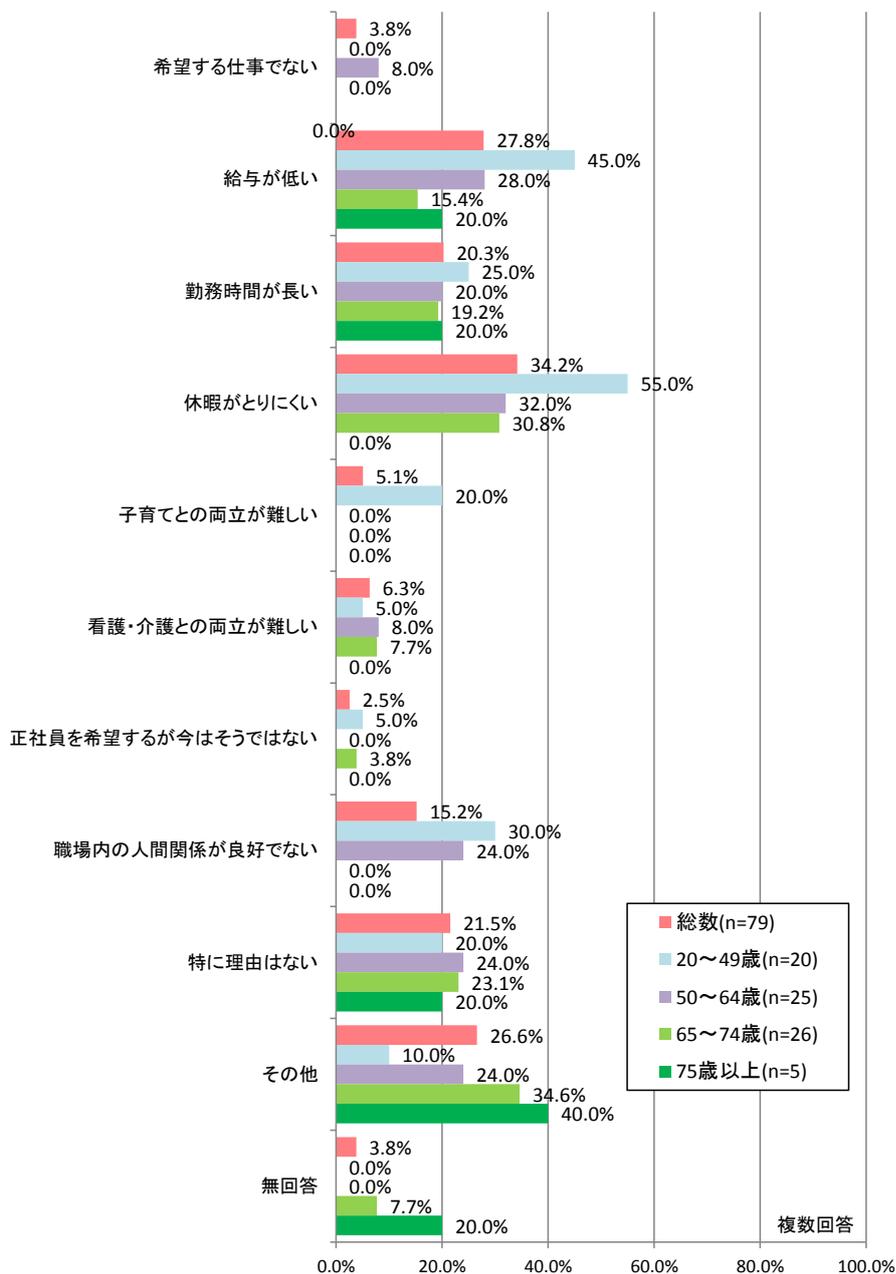
転職、起業したい理由 (問 17)



2) 休職・退職したい理由

●20～49 歳における休職・退職したい理由としては、「休暇がとりにくい(55.0%)」が最も多く、次いで「給与が低い(45.0%)」、「職場内の人間関係が良好でない」(30.0%)に加え、「子育てとの両立が難しい」(20.0%)となっている。

休職・退職したい理由（問17）



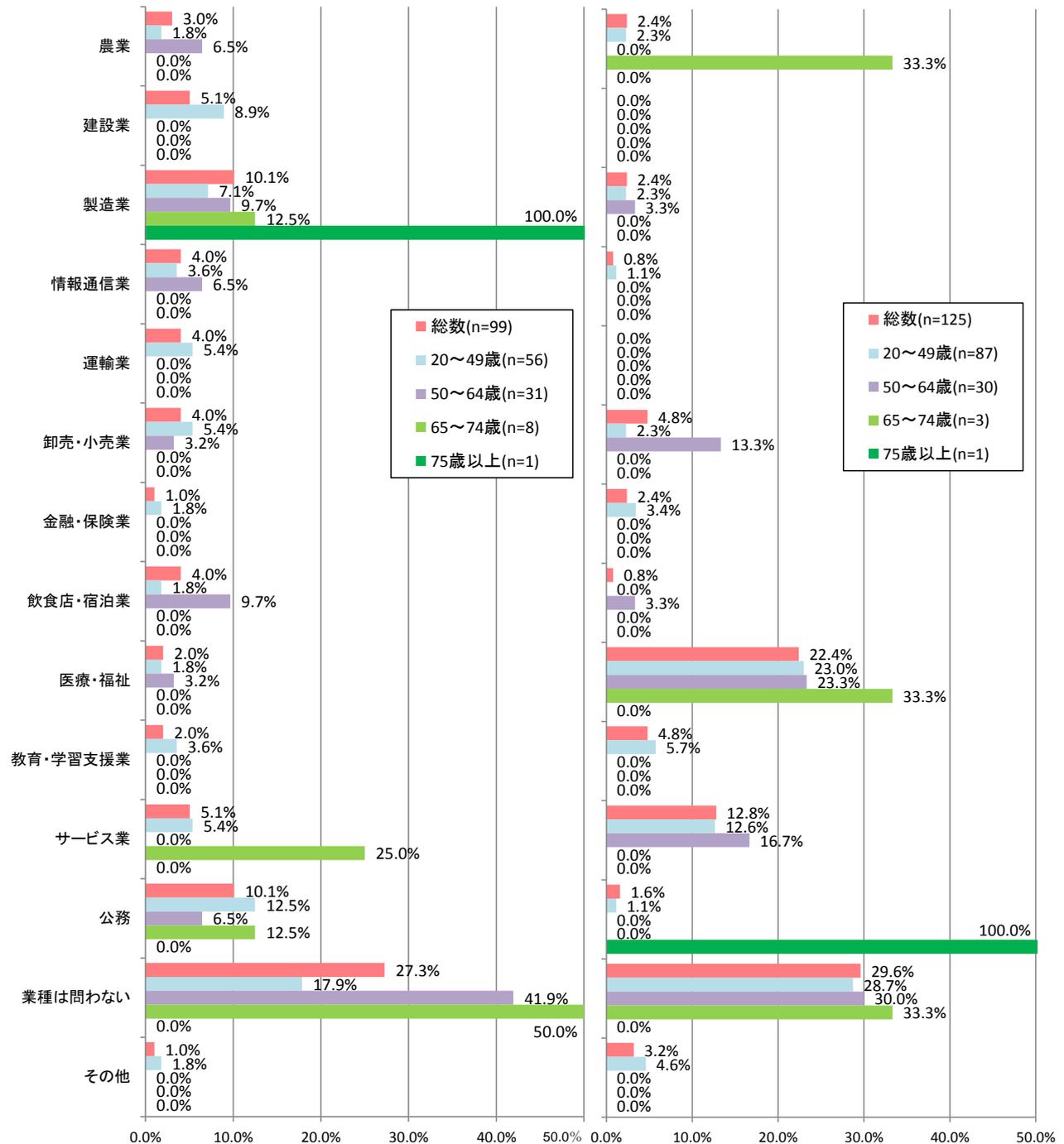
(4) 就職・転職等を希望する業種

- 20～49歳の男性の回答者が希望する業種としては、「業種は問わない」(17.9%)が最も多く、次いで「公務」(12.5%)、「建設業」(8.9%)、「製造業」(7.1%)である。
- 20～49歳の女性についても、「業種は問わない」(28.7%)が最も多いものの、次いで「医療・福祉」(23.0%)、「サービス業」(12.6%)に対する希望が高くなっている。

就職・転職・起業を希望する業種（上位10項目）（問18）

<男性>

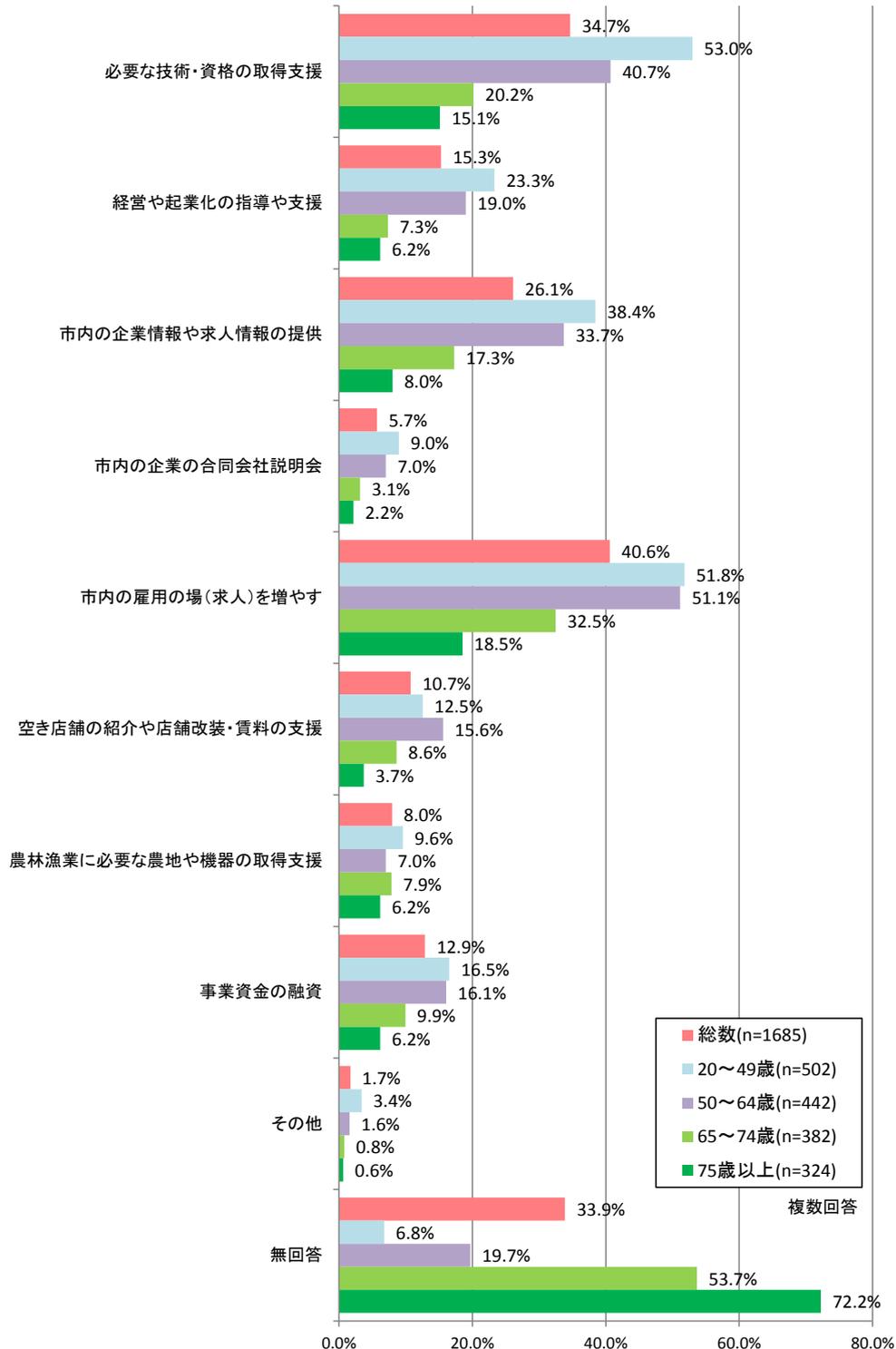
<女性>



(5) 就職・転職等に必要な支援

- 全年齢における、八代市内で就職、転職、起業する場合に必要な支援としては、「市内の雇用の場（求人）を増やす」（40.6%）、「必要な技術・資格の取得支援」（34.7%）、「市内の企業・求人情報の提供」（26.1%）に対する要望が高い。
- 20～49歳については、「必要な技術・資格の取得支援」（53.0%）に対する要望が最も高くなっている。

八代市内で就職、転職、起業する場合に必要な支援（問19）



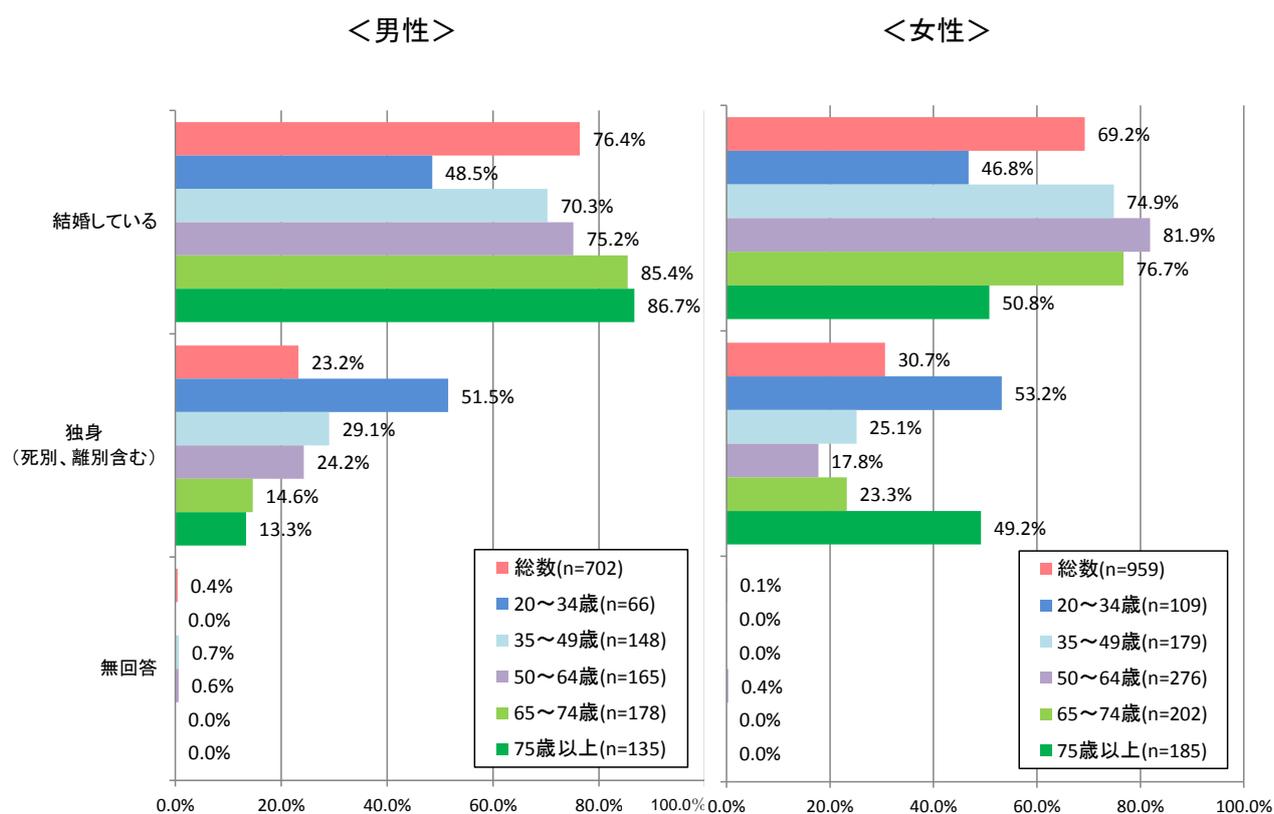
2-4 結婚・出産・子育てに係る現状・意向

(1) 結婚・出産の現状

1) 結婚

●男性、女性ともに、20～34歳の約5割（男性48.5%、女性46.8%）、35～49歳の約7割（男性70.3%、女性74.9%）が「結婚している」。

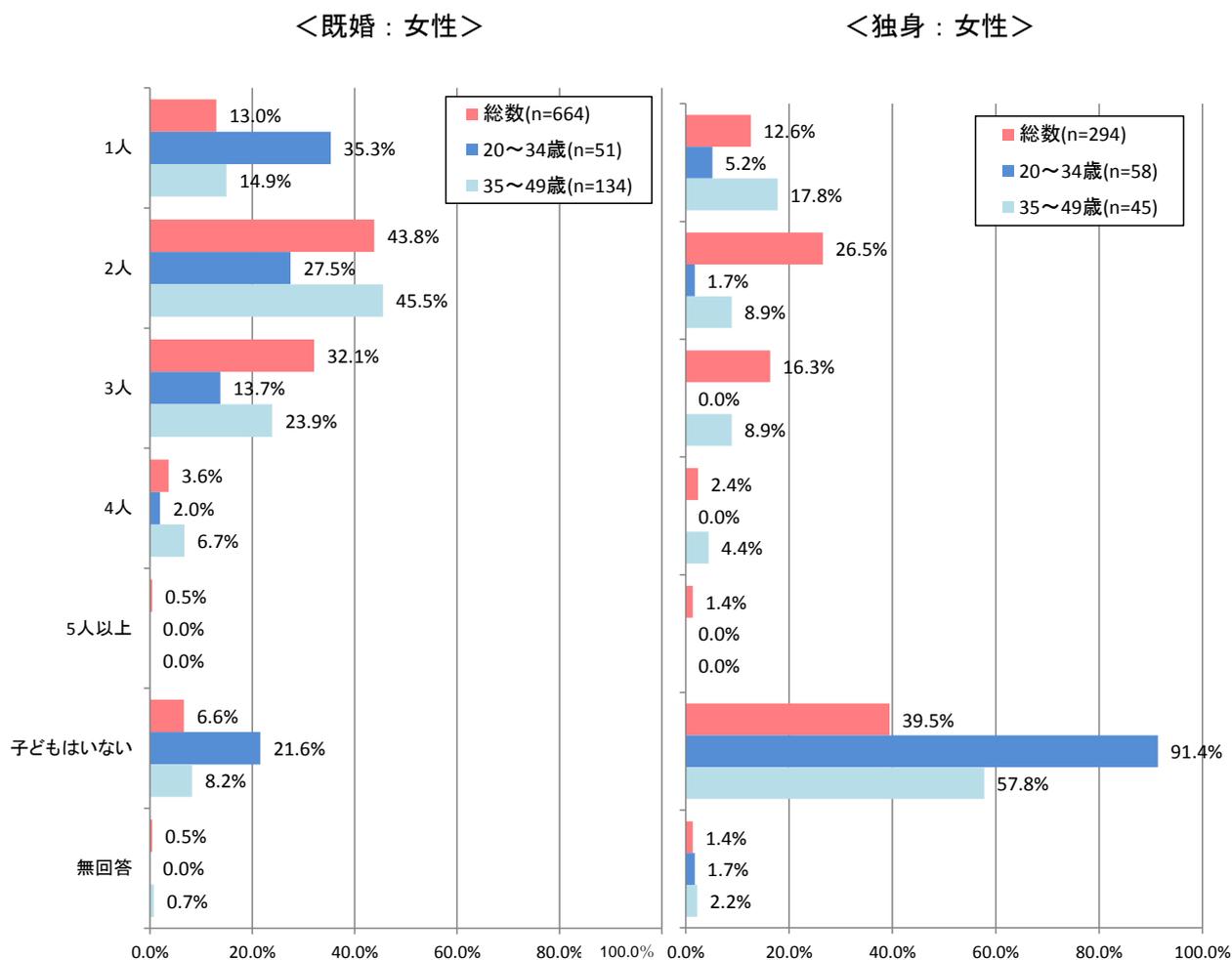
現在の結婚状況（問3）



2) 子どもの数

- 既婚女性の子どもの数の平均は、20～34歳で1.4人、35～49歳で2.1人であり、20～49歳では1.9人である。
- なお、死別・離婚を含む独身女性についても、20～34歳の約1割、35歳～49歳の約4割には、子どもがいる。

現在の子どもの数（問4）



	子どもの数 平均
20～34歳	1.4人
35～49歳	2.1人
20～49歳	1.9人

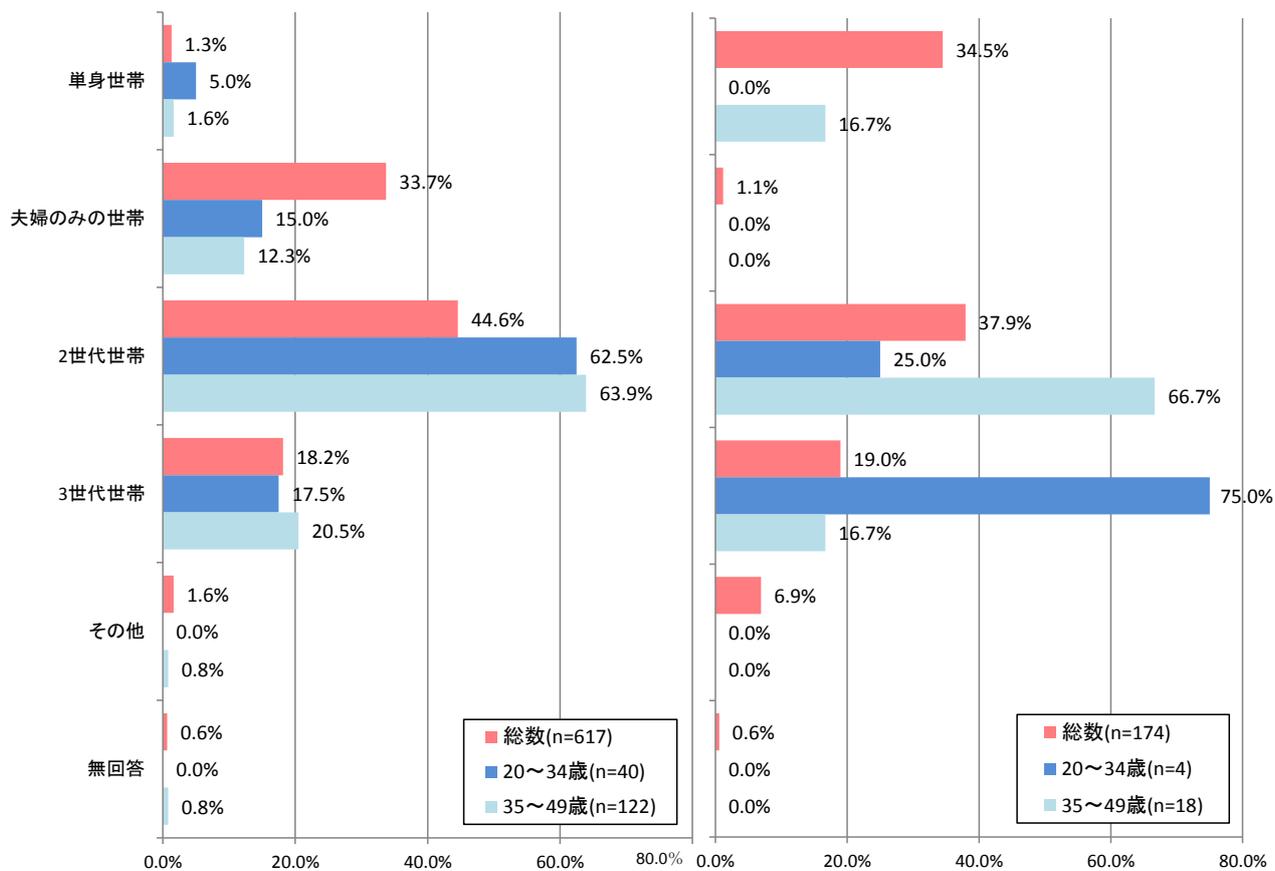
3) 同居している家族の形態

- 子どもがいる既婚女性について、同居している家族の形態をみると、20～34歳、35～49歳の約2割は3世代世帯であり、祖父母の子育て支援を受けることが可能といえる。
- また、子どもがいる独身女性についても、20～34歳の75.0%、35～49歳の16.7%は、3世代世帯である。

同居している家族の形態（問5）

<既婚：子どもあり：女性>

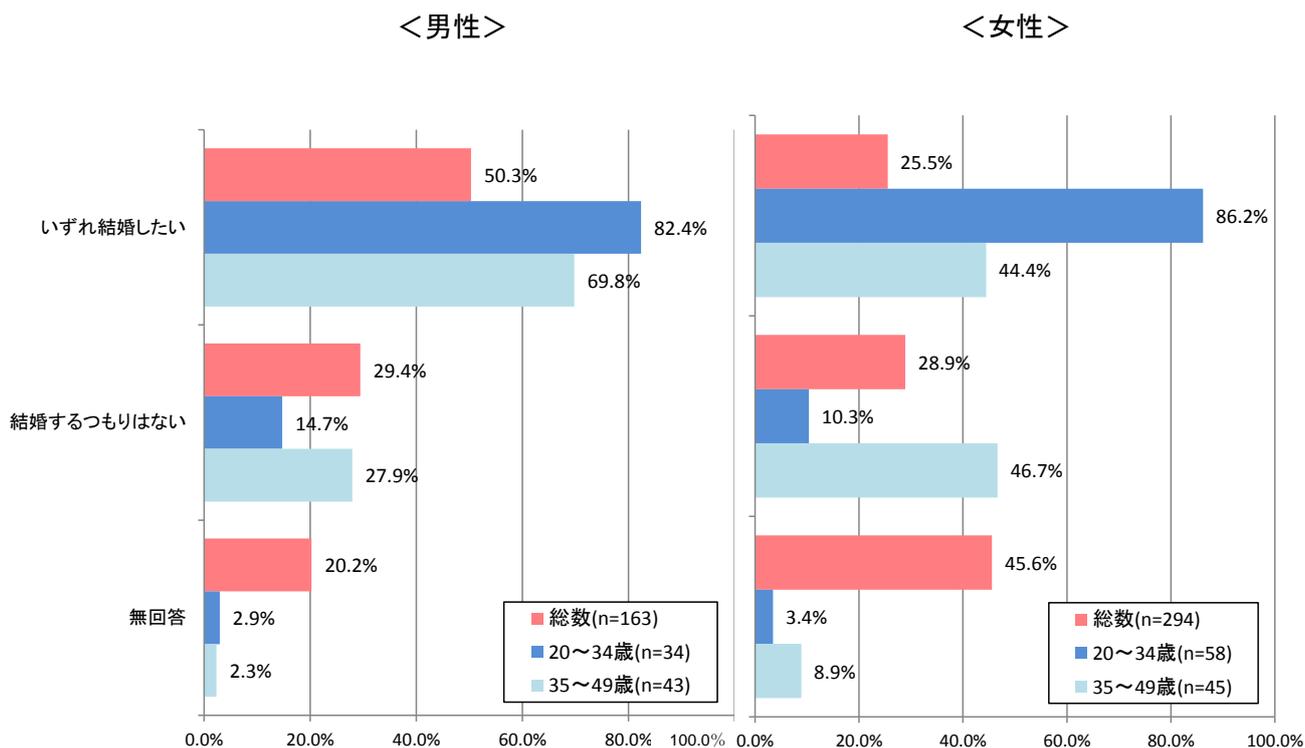
<独身：子どもあり：女性>



(2) 独身者の結婚に対する意向

- 男性については、20～34歳の82.4%、35～49歳の69.8%が、「いずれ結婚したい」と考えている。
- 一方、女性については、20～34歳の86.2%は「いずれ結婚したい」と考えているものの、35～49歳のうち「いずれ結婚したい」と考えている回答者は、44.4%にすぎない。

独身者の結婚に対する意向（問 24）



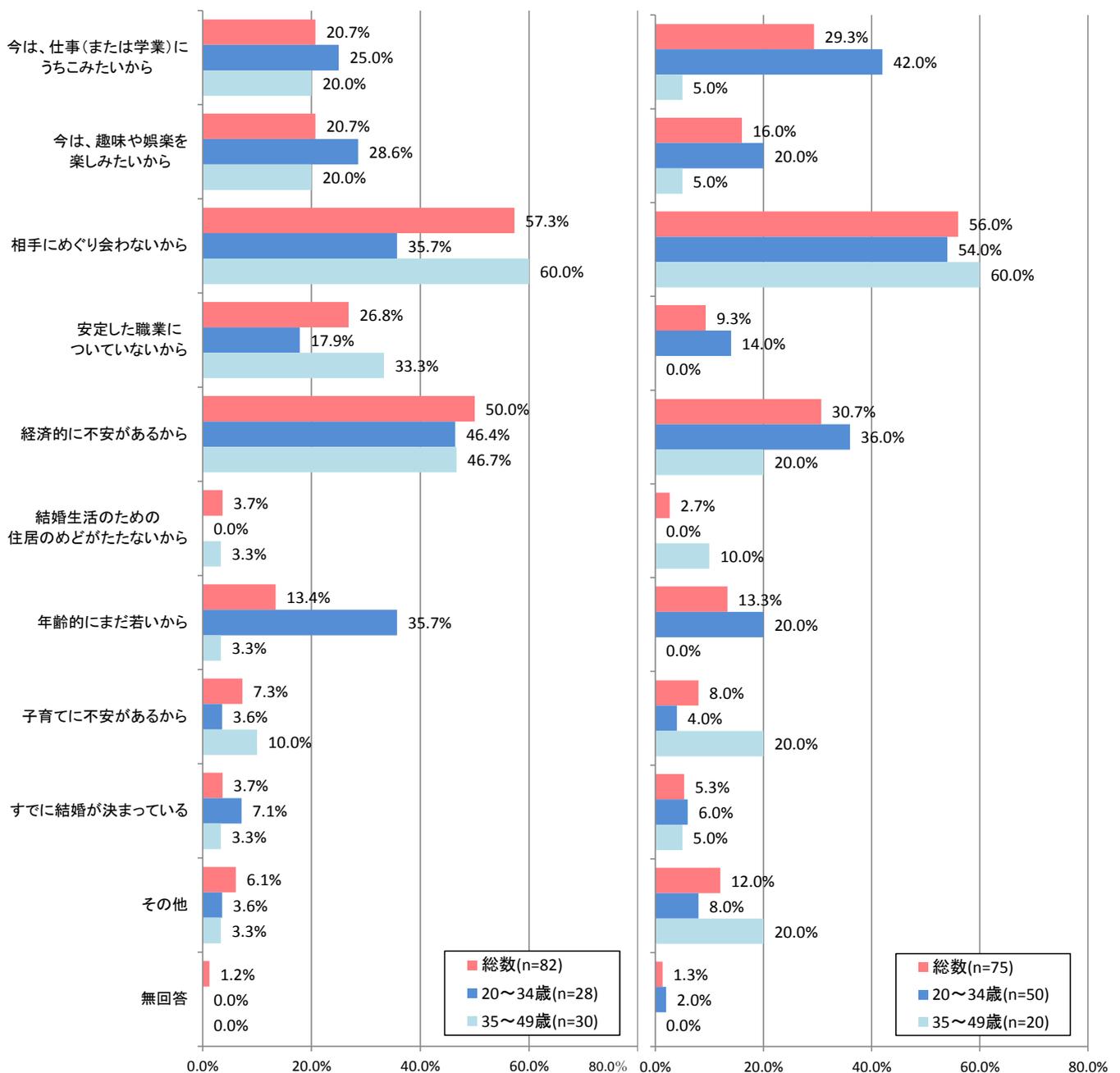
(3) 結婚していない理由

- 男性の現在結婚していない理由としては、「相手にめぐり合わないから」(57.3%)が最も多く、次いで「経済的に不安があるから」(50.0%)、「安定した職業に付いていないから」(26.8%)の順となっており、特に35～49歳については、「相手にめぐり合わないから」の割合が高まっている。
- 女性についても、「相手にめぐり合わないから」(56.0%)が最も多い。次いで「経済的に不安があるから」(30.7%)、「今は、仕事にうちこみたいから」(29.3%)の順であり、特に20～34歳については、「今は、仕事にうちこみたいから」の割合が高まっている。

現在結婚していない理由 (問 25)

<男性>

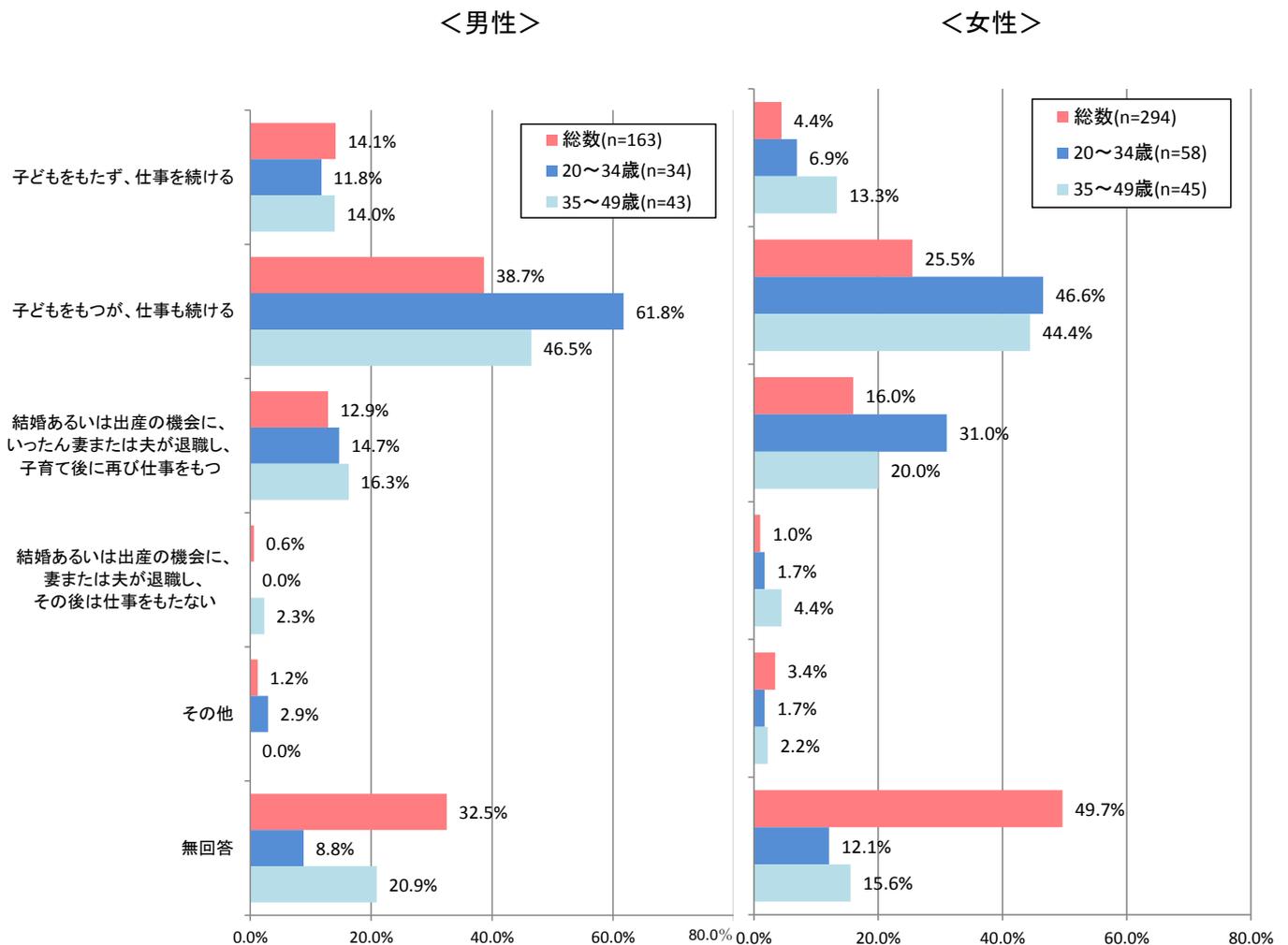
<女性>



(4) 仕事と子育てに対する意向

- 20～34歳の独身女性の仕事と子育ての考え方としては、「子どもをもつが、仕事を続ける」が46.6%、「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ」が31.0%となっている。
- 35～49歳の独身女性については、20～34歳に比べ、「子どもをもたず仕事を続ける」(13.3%)の割合が増加し、「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ」(20.0%)の割合が低くなっている。

仕事と子育てに対する意向 (問 26)



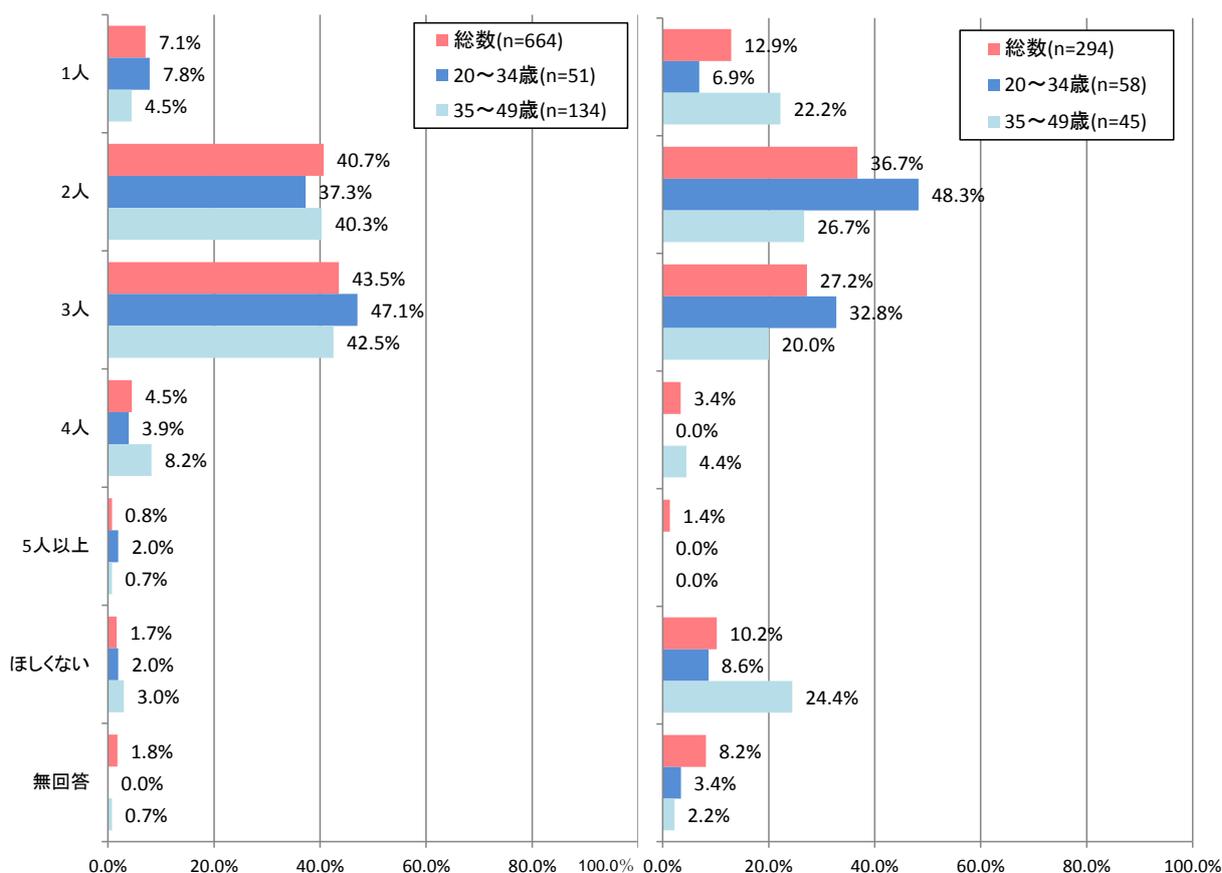
(5) 希望する子どもの数

- 独身の20～34歳の女性は、将来、2.1人の子どもを持つことを希望している。
- また、既婚の20～49歳の女性は、現在の子どもを含め2.5人の子どもを持つことを希望している。

希望する子どもの数（問27）

<既婚：女性>

<独身：女性>



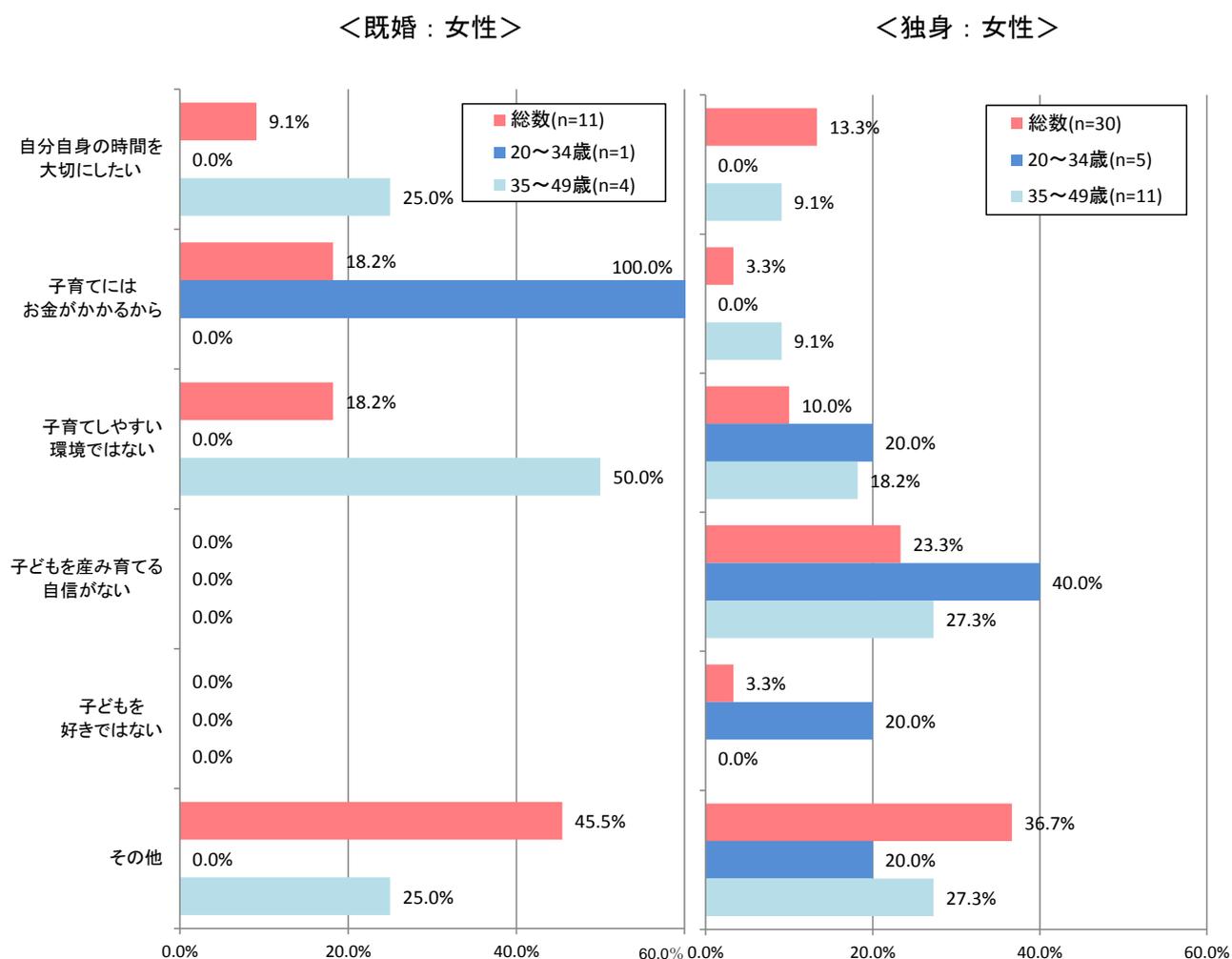
	子どもの数 平均
20～34歳	2.5人
35～49歳	2.5人
20～49歳	2.5人

	子どもの数 平均
20～34歳	2.1人
35～49歳	1.6人
20～49歳	1.9人

(6) 子どもをほしくない理由

●独身女性の子どもがほしくない理由としては、「子どもを産み育てる自信がない」(23.3%)が最も多く、次いで「自分自身の時間を大切にしたい」(13.3%)、「子育てしやすい環境ではない」(10.0%)となっている。

子どもをほしくない理由 (問 28)



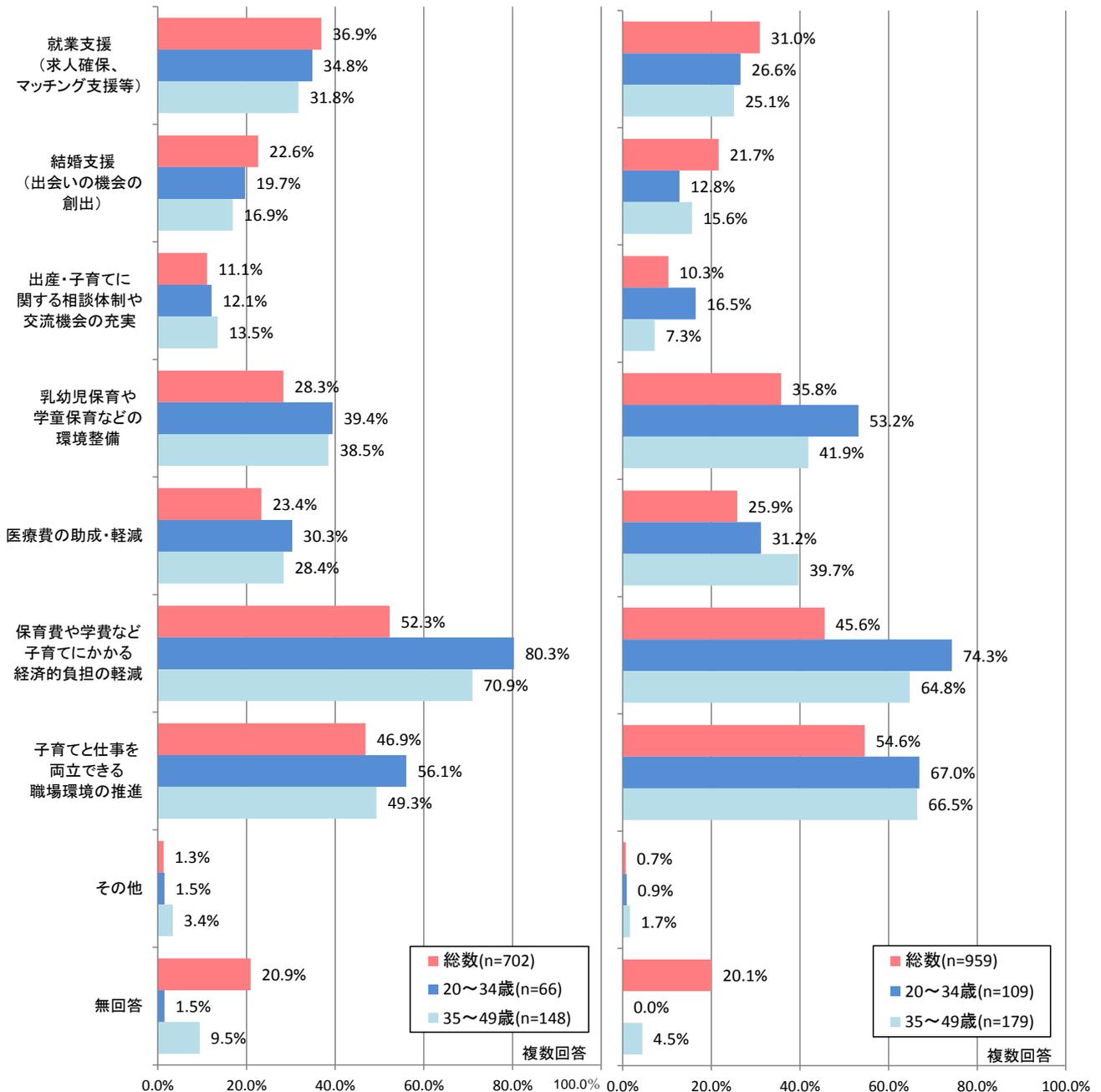
(7) 子どもの数を増やすために必要な取組み

●20～49歳の回答者が、子どもの数を増やすために必要な取組みとしては、「保育費や学費など子育てにかかる経済的負担の軽減」が最も多く、次いで「子育てと仕事を両立できる職場環境」「乳幼児保育や学童保育などの環境整備」に対する要望が高い。

子どもの数を増やしていくために必要な取組み（問29）

<男性>

<女性>

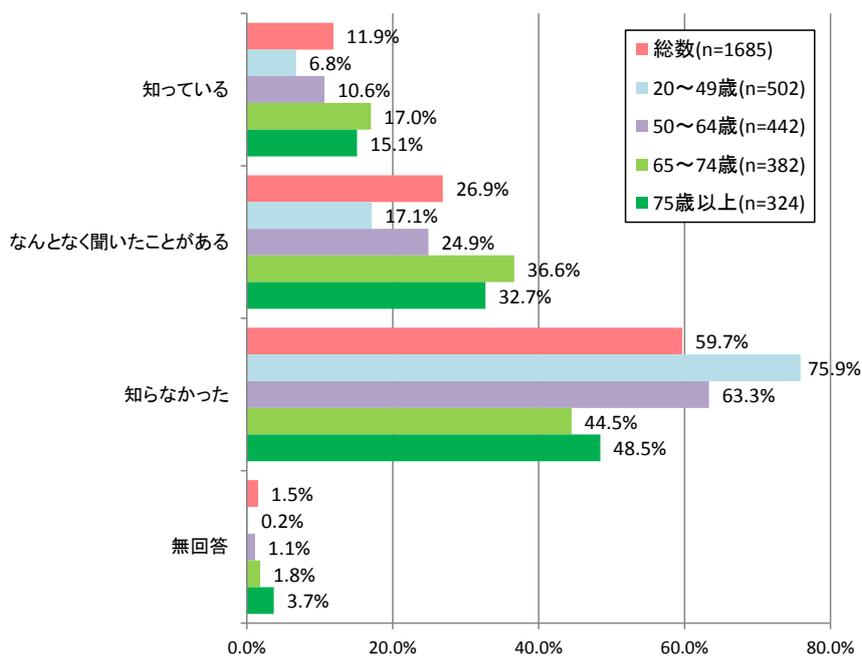


2-5 人口減少に係る現状認識

(1) 将来推計人口の認識

- 国立社会保障・人口問題研究所が推計した 2040 年の将来推計人口 9 万人について、推計結果を「知っている」回答者は、11.9%である。
- 「知らなかった」回答者は 59.7%であり、年齢階層が低いほど、「知らなかった」割合は高まっており、若い世代ほど人口問題に対する認識が低いといえる。

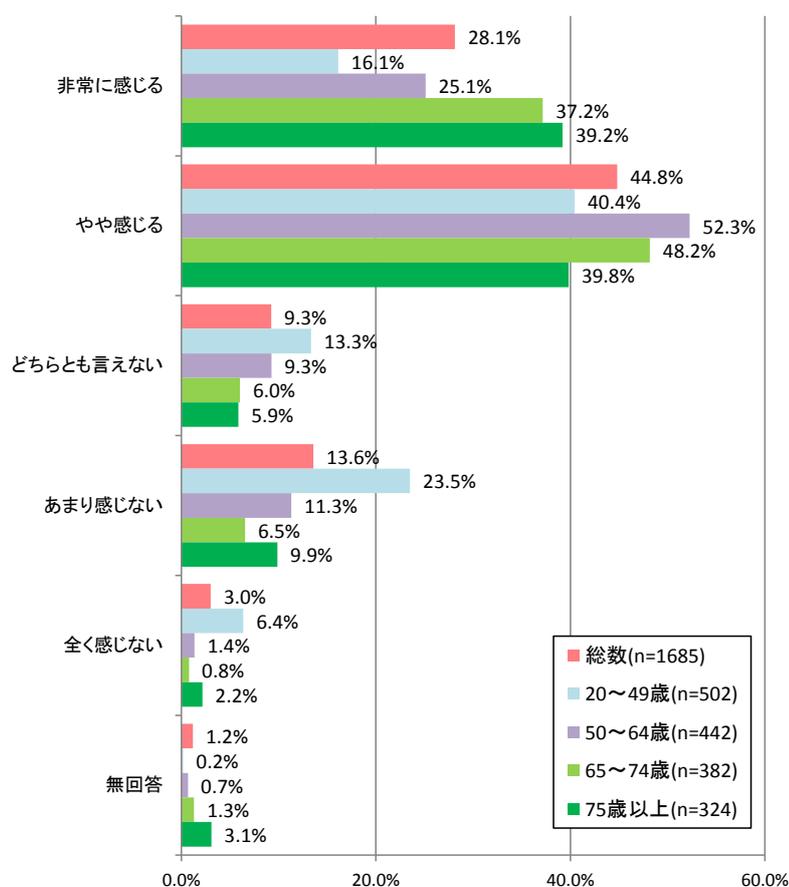
社人研将来推計人口の認識（問 20）



(2) 人口減少に対する意識

- 現在、身近なこととして、人口が減少していると「非常に感じる」回答者は 28.1%、「やや感じる」回答者は 44.8%であり、約7割の方が人口減少を身近なことと感じている。
- 年齢階層が高くなるほど、「非常に感じる」割合は高まっている。
- 一方、「あまり感じない」、「全く感じない」割合は、他の年齢階層に比べ 20～49 歳が高く、若い世代ほど人口減少を身近な問題として感じていないといえる。

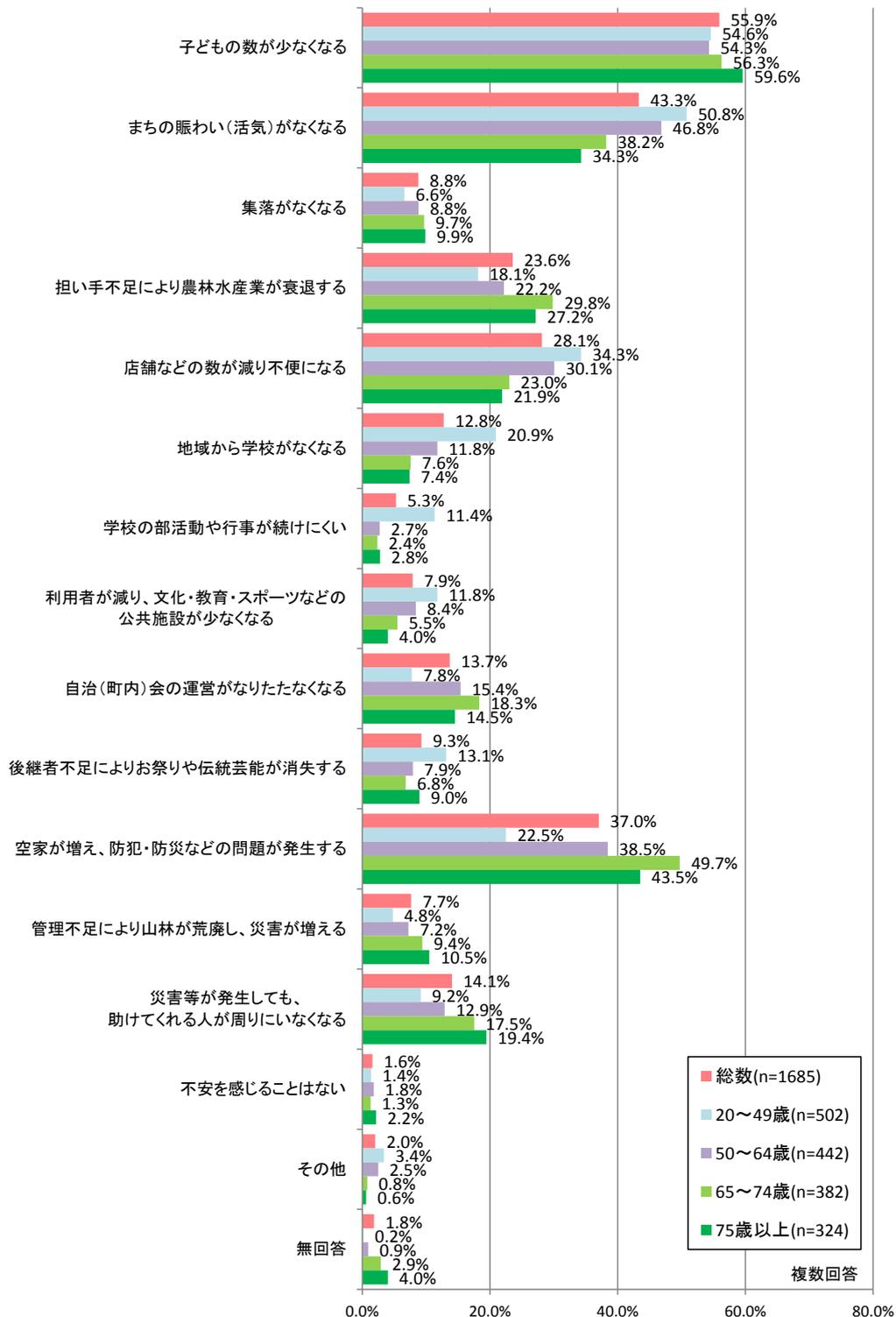
身近なこととして、人口減少を感じるか（問 21）



(3) 人口減少に対する不安

- 今後さらに人口が減少し続けた場合、「子どもの数の数が少なくなる」(55.9%)のみならず、「まちの賑わい(活気)がなくなる」(43.3%)といった地域活力低下、「空家が増え、防犯・防災などの問題が発生する」(37.0%)に対する不安を強く感じている。
- 年齢別にみると、地域活力低下に関する不安は、年齢階層が低いほど高く、防犯・防災に関する不安は、年齢階層が高いほど高まっている。

今後さらに人口が減少しつづけた場合、不安を感じること (問 22)

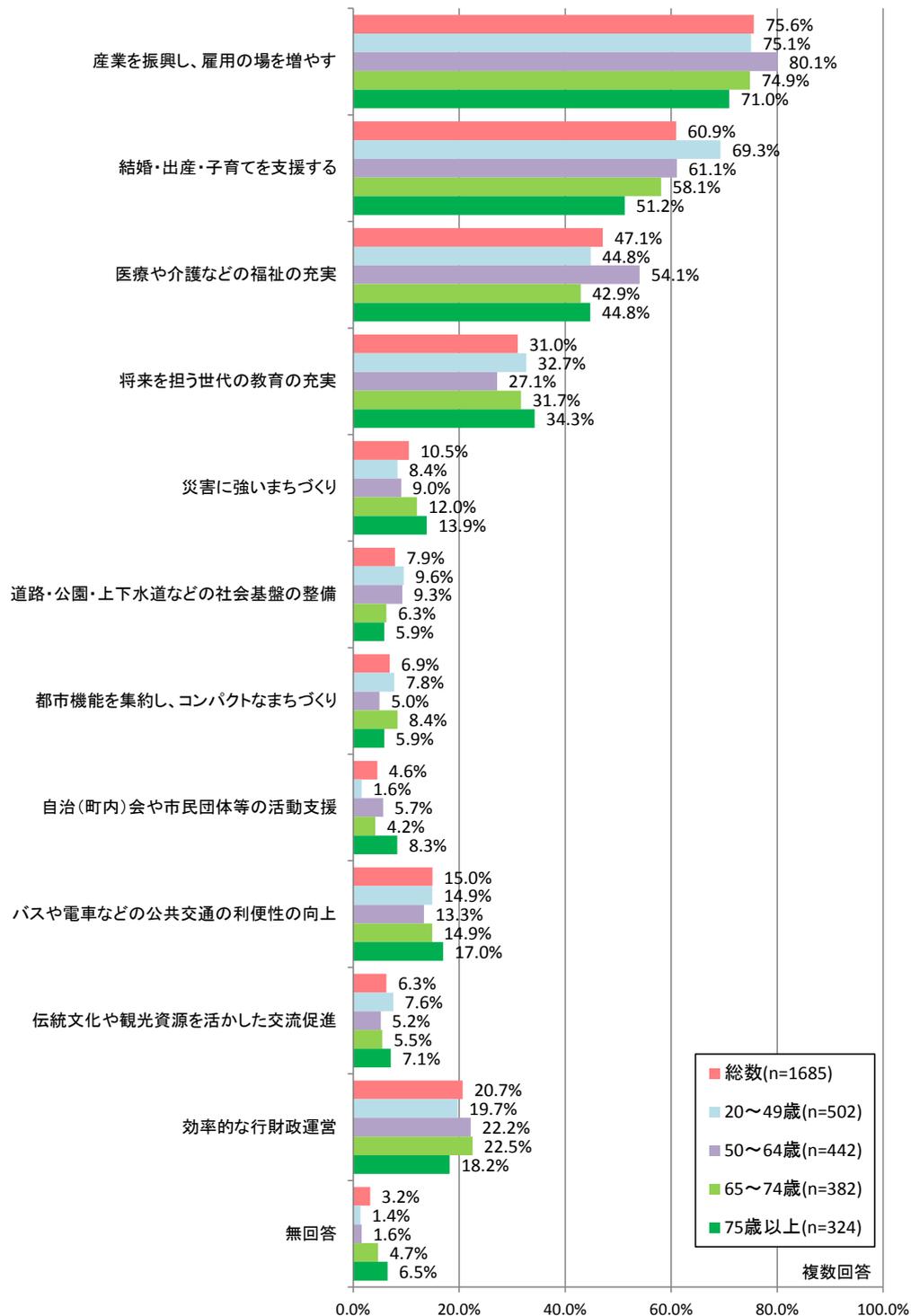


(4) 人口減少を克服するために重要な取組み

1) 重要な取組み

●人口減少を克服し持続可能な地域社会をつくるため、力を入れるべき取組みとしては、「産業を振興し、雇用の場を増やす」(75.6%)、「結婚・出産・子育てを支援する」(60.9%)、「医療や介護などの福祉の充実」(47.1%)、「将来を担う世代の教育の充実」(31.0%)に対する指摘が多い。

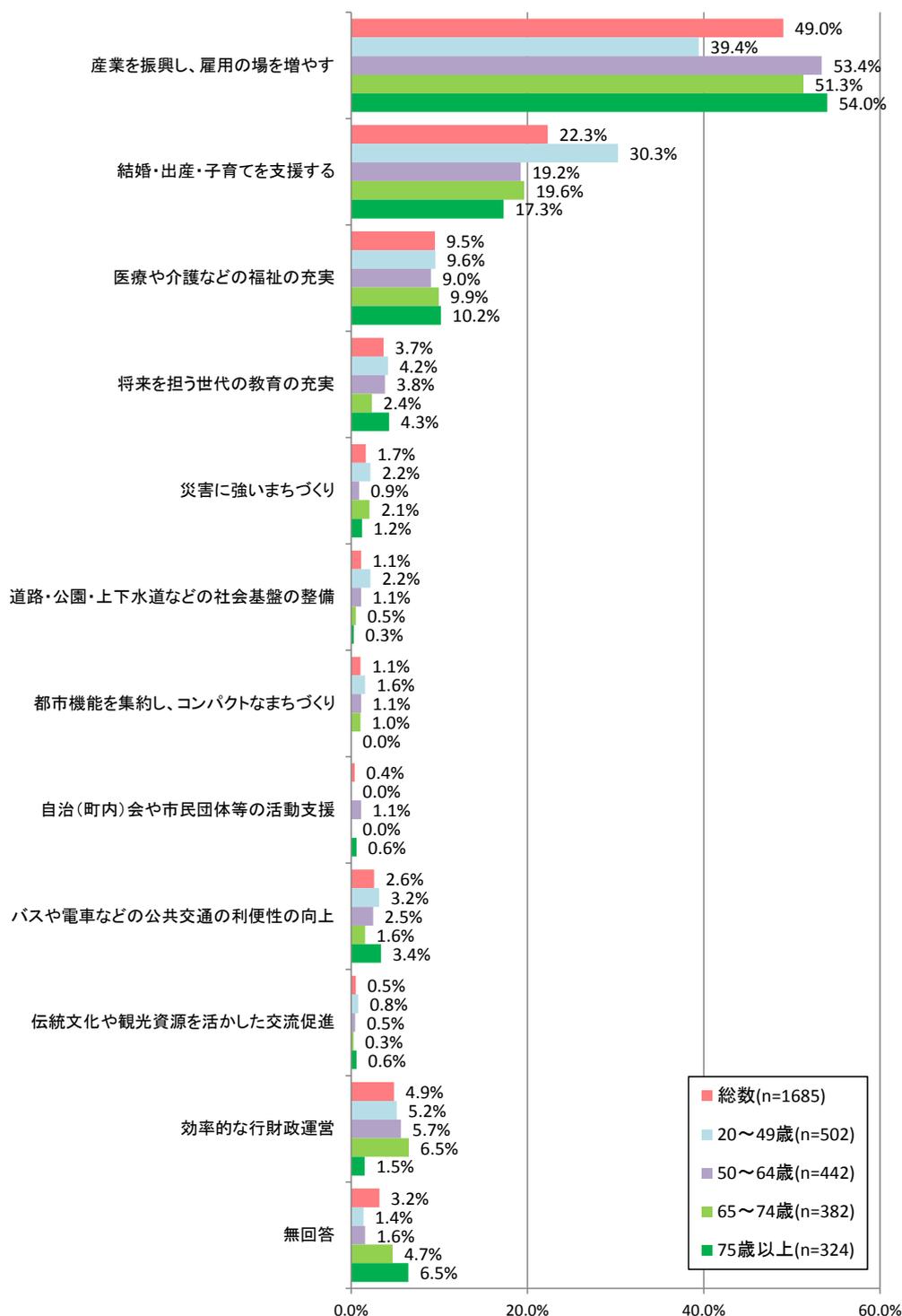
人口減少を克服するため力を入れるべき取組み (問 23)



2) 最も重要な取組み

- 人口減少を克服し持続可能な地域社会をつくるため、最も重要な取組みとしては、「産業を振興し、雇用の場を増やす」(49.0%)、「結婚・出産・子育てを支援する」(22.3%)となっている。
- 「結婚・出産・子育てを支援する」は、子育て世代である20～49歳において、他の年齢層よりも10ポイント以上高くなっている。

人口減少を克服するため力を入れるべき取組み（最重要）（問23）

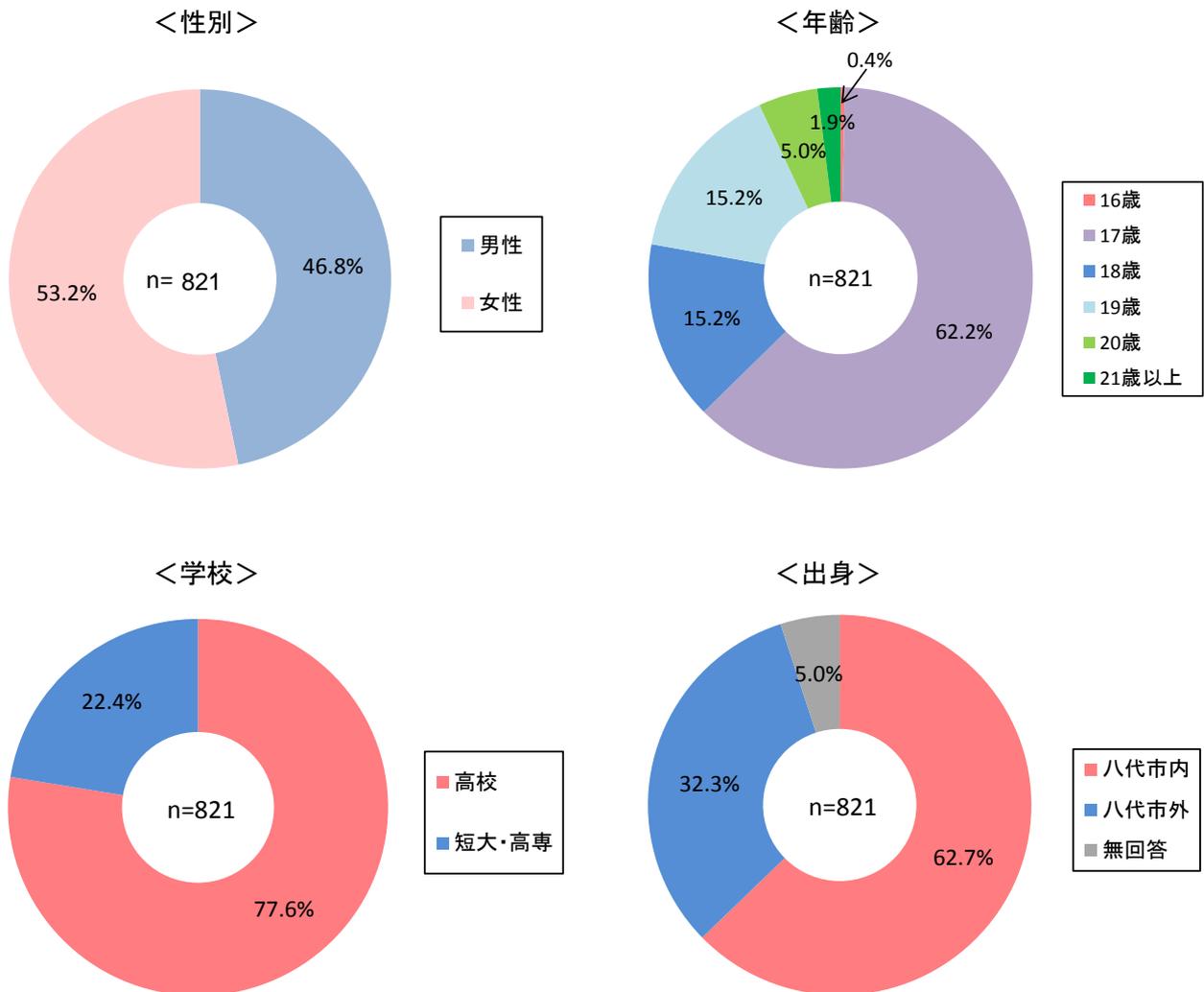


3. 学生アンケート調査結果

3-1 属性

- 学生アンケートは、高校生 673 人 (77.6%)、短大・高専生 184 人 (22.4%) から回答を得た。
- 男女比は男性 46.8%、女性 53.2%である。
- 年齢は、17 歳が最も多く 62.2%を占め、20 歳以上は全回答者の 6.9%である。
- また、回答者のうち、八代市出身者は 62.7%である。

学生アンケート調査回答者の属性 (問 1)



3-2 卒業後の進路（居住地）に係る意向

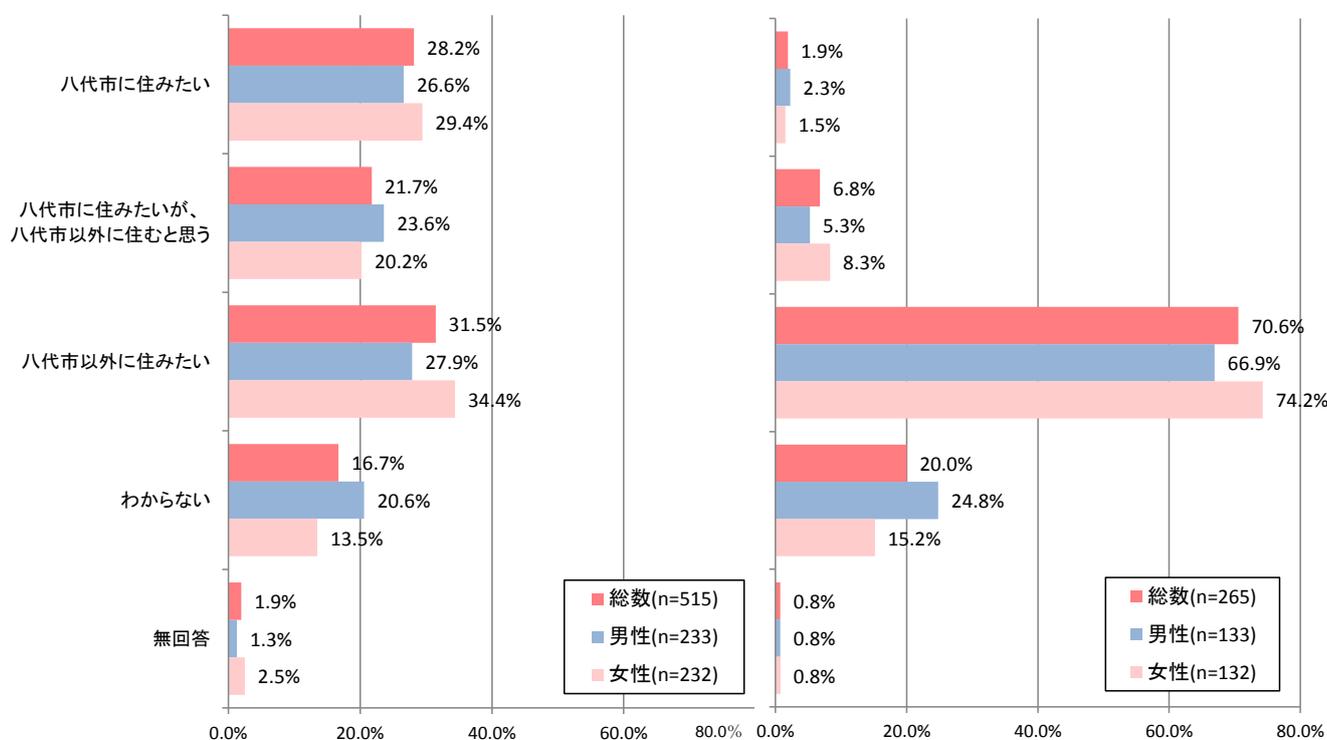
(1) 卒業後の八代市居留意向

- 八代市出身者については、28.2%が、卒業後も「八代市に住みたい」と回答している。
- 一方、21.7%が「八代市に住みたいが、八代市以外に住むと思う」、31.5%が「八代市以外に住みたい」と回答しており、合わせて53.2%が卒業後八代市以外に住む（住みたい）としている。
- なお、八代市外出身者については、1.9%が、卒業後も「八代市に住みたい」と回答している。

卒業後の八代市居留意向（問2）

<八代市出身者>

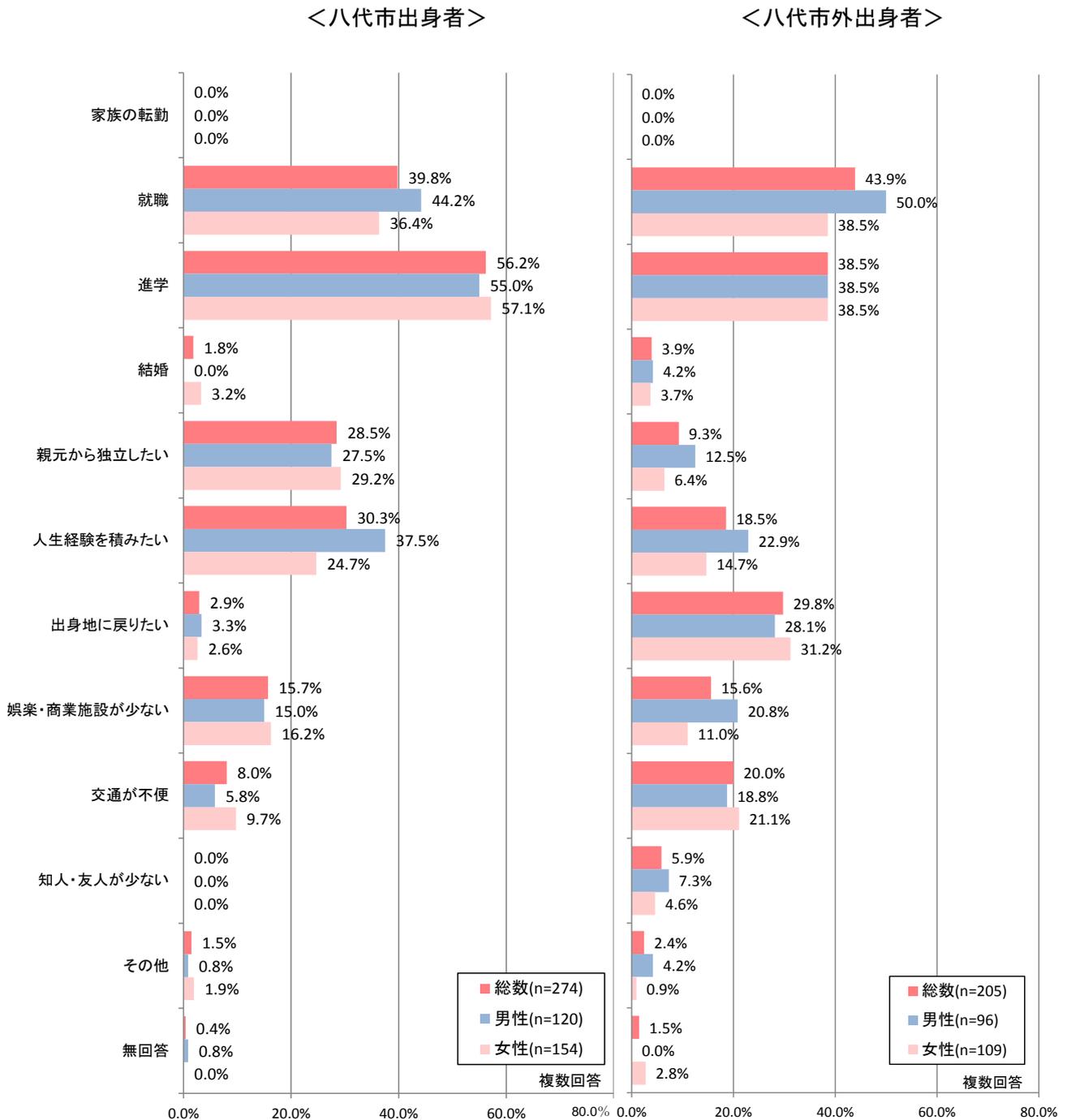
<八代市外出身者>



(2) 八代市外に住む理由

- 八代市出身者が、八代市外に住む理由の56.2%が「進学」、39.8%が「就職」である。
- 八代市外出身者についても、「就職」(43.9%)、「進学」(38.5%)が理由の上位であるものの、「出身地に戻りたい」(29.8%)、「交通が不便」(20.0%)も理由のひとつにあげられている。

八代市外に住む理由（問3）



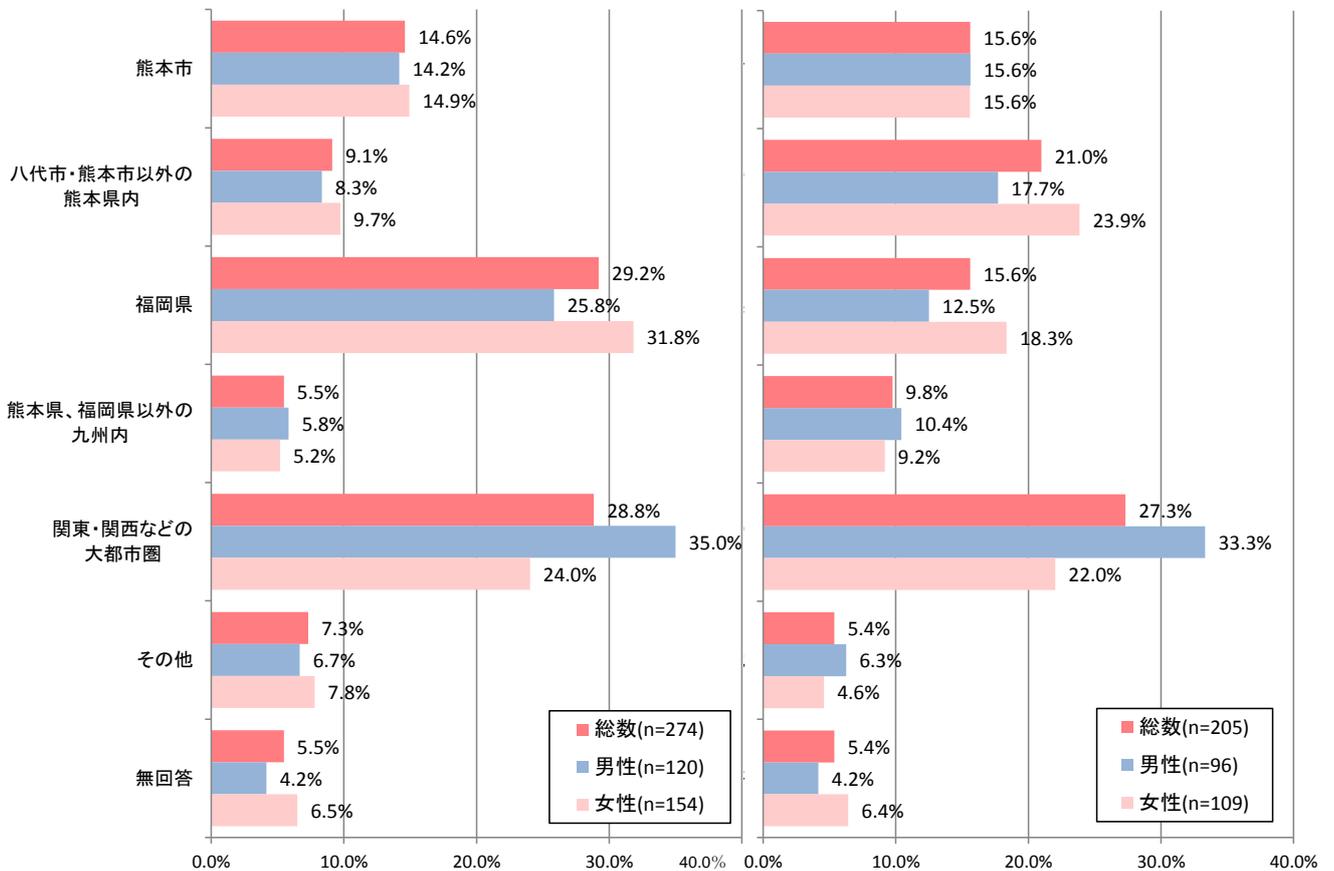
(3) 住みたい地域

- 八代市出身者の住みたい地域としては、「福岡県」(29.2%)、「関東・関西などの大都市圏」(28.8%)に次いで「熊本市」(14.6%)となっている。
- 男女別にみると、女性は「福岡県」(31.8%)、男性は「関東・関西などの大都市圏」(35.0%)の割合が高い。
- 一方、八代市外出身者については「関東・関西などの大都市圏」(27.3%)に次いで「八代市・熊本県以外の熊本県内」(21.0%)の割合が高くなっている。

住みたい、住むと思う地域 (問4)

<八代市出身者>

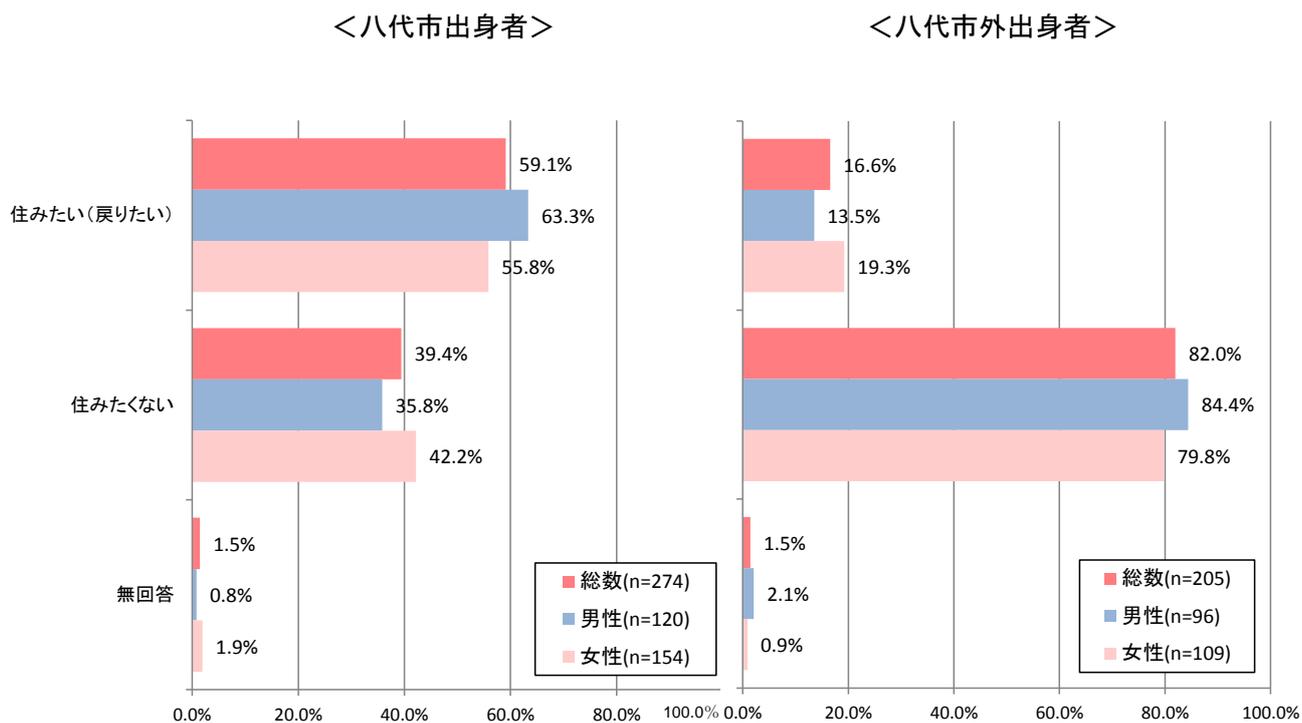
<八代市外出身者>



(4) 将来の八代市居住意向

- 八代市出身者のうち、59.1%は、八代市外に転出しても「将来八代市に住みたい（戻りたい）」と考えている。その割合は、男性の方が高く 63.3%、女性は 55.8%である。
- また、八代市外出身者についても、16.6%が「将来八代市に住みたい（戻りたい）」と考えている。

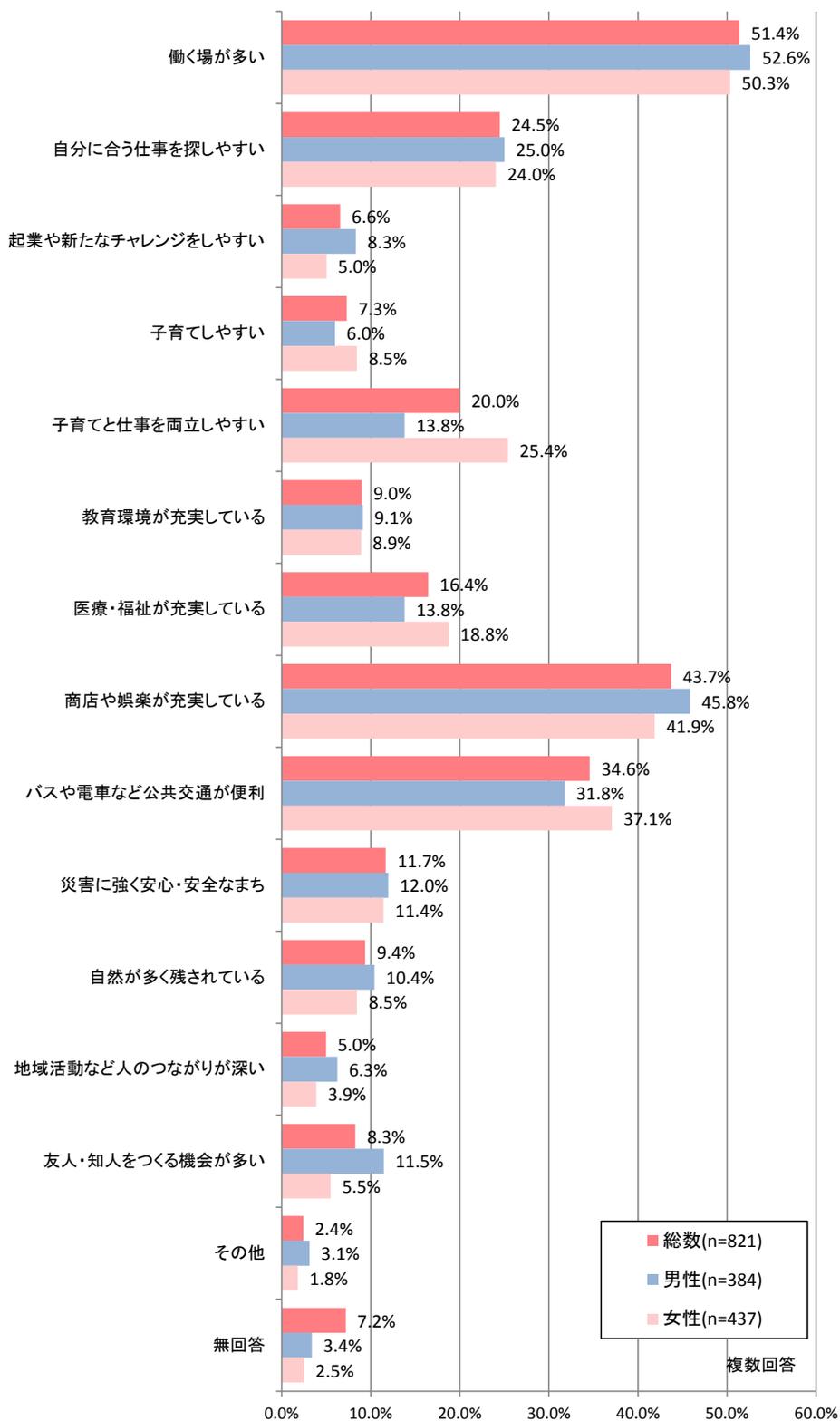
将来の八代市居住意向（問 5）



(5) 八代市に住むために必要な環境・支援

●八代市に住むために必要な環境・支援としては、「働く場が多い」(51.4%)、「商店や娯楽が充実している」(43.7%)、「バスや電車など公共交通が便利」(34.6%)、「自分に合う仕事を探しやすい」(24.5%)、「子育てと仕事を両立しやすい」(20.0%)、「子育てしやすい」(20.0%)、「教育環境が充実している」(9.0%)、「医療・福祉が充実している」(16.4%)、「災害に強く安心・安全なまち」(11.7%)、「自然が多く残されている」(9.4%)、「地域活動など人のつながりが深い」(5.0%)、「友人・知人をつくる機会が多い」(8.3%)、「その他」(2.4%)、「無回答」(7.2%)が上位を占めている。

八代市に住むために必要な環境・支援 (問 6)



3-3 就業に係る意向

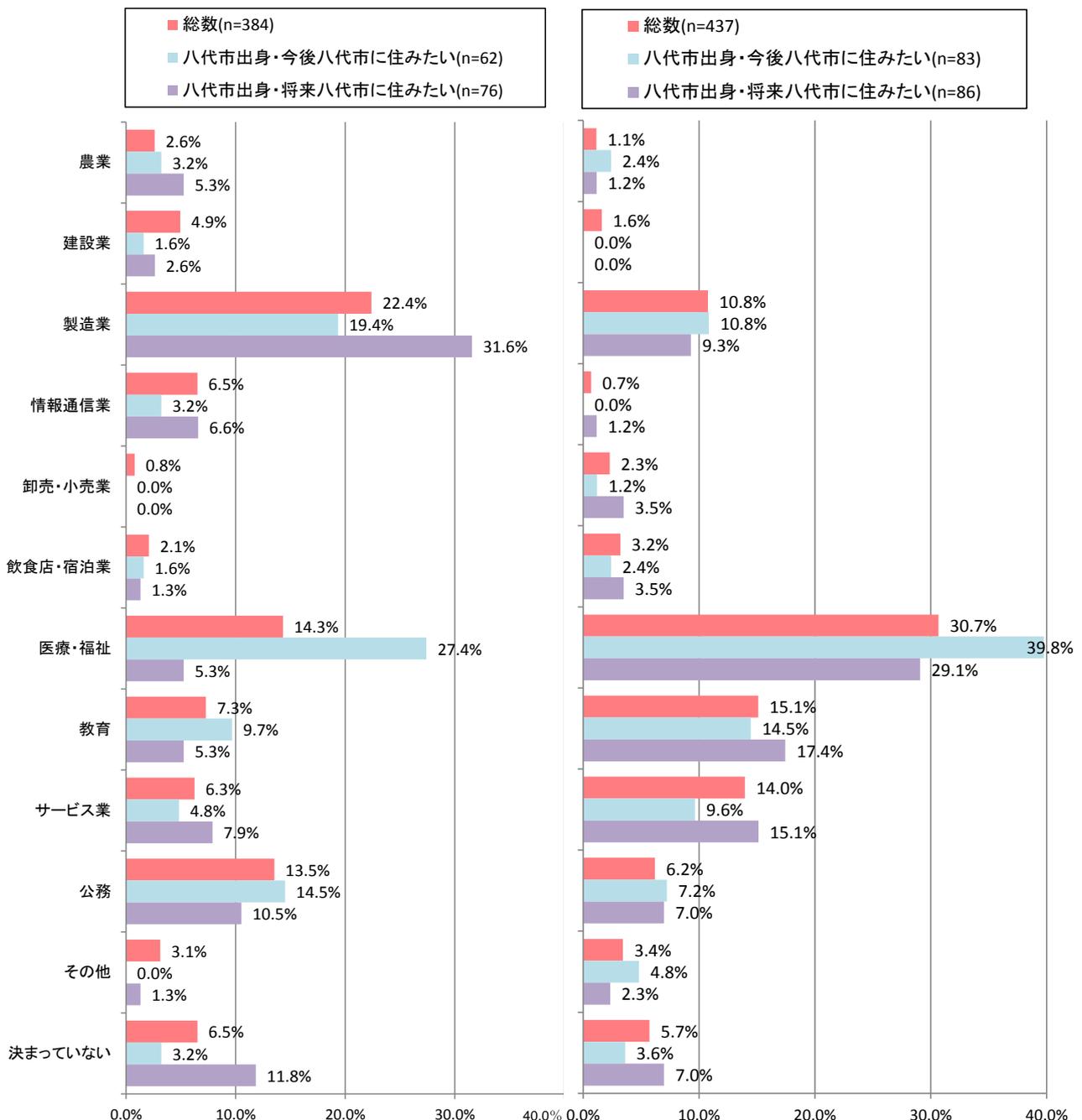
(1) 就職を希望する業種

- 男性が就職を希望する業種は、「製造業」(22.4%)、「医療・福祉」(14.3%)、「公務」(13.5%)が多い。八代市出身者のうち、今後八代市に住みたい男性は、「医療・福祉」(27.4%)を希望する割合が特に高く、将来八代市に住みたい男性は、「製造業」(31.6%)を希望する割合が高い。
- 女性が就職を希望する業種は、「医療・福祉」(30.7%)、「教育」(15.1%)、「サービス業」(14.0%)が多く、男性と同様に、八代市出身者のうち、今後八代市に住みたい女性は、「医療・福祉」(39.8%)を希望する割合が特に高い。

就職を希望する業種（上位10項目）（問7）

<男性>

<女性>



3-4 結婚・出産・子育てに係る意向

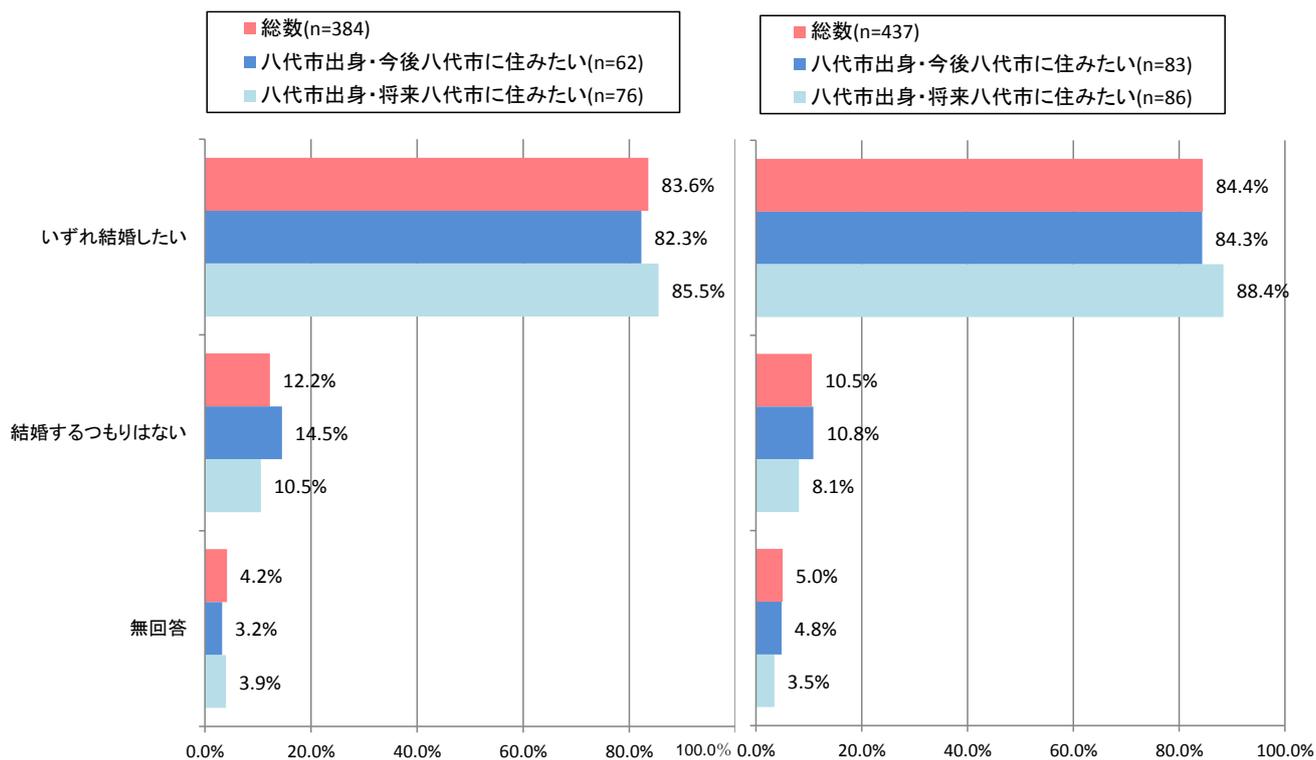
(1) 結婚の意向

●男女ともに、約84%は「いずれ結婚したい」と考えている。

結婚の意向（問8）

<男性>

<女性>

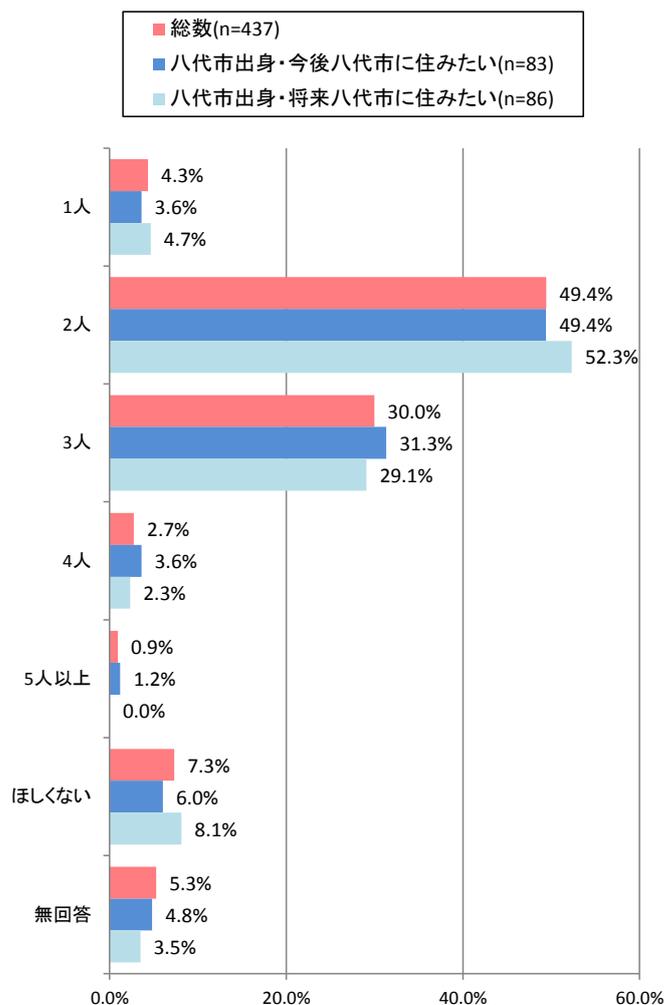


(2) 子どもの数

●女性が将来希望する子供の数は、2人が最も多く（49.4%）、次いで3人（30.0%）であり、平均2.2人である。

希望する子どもの数（問9）

<女性>



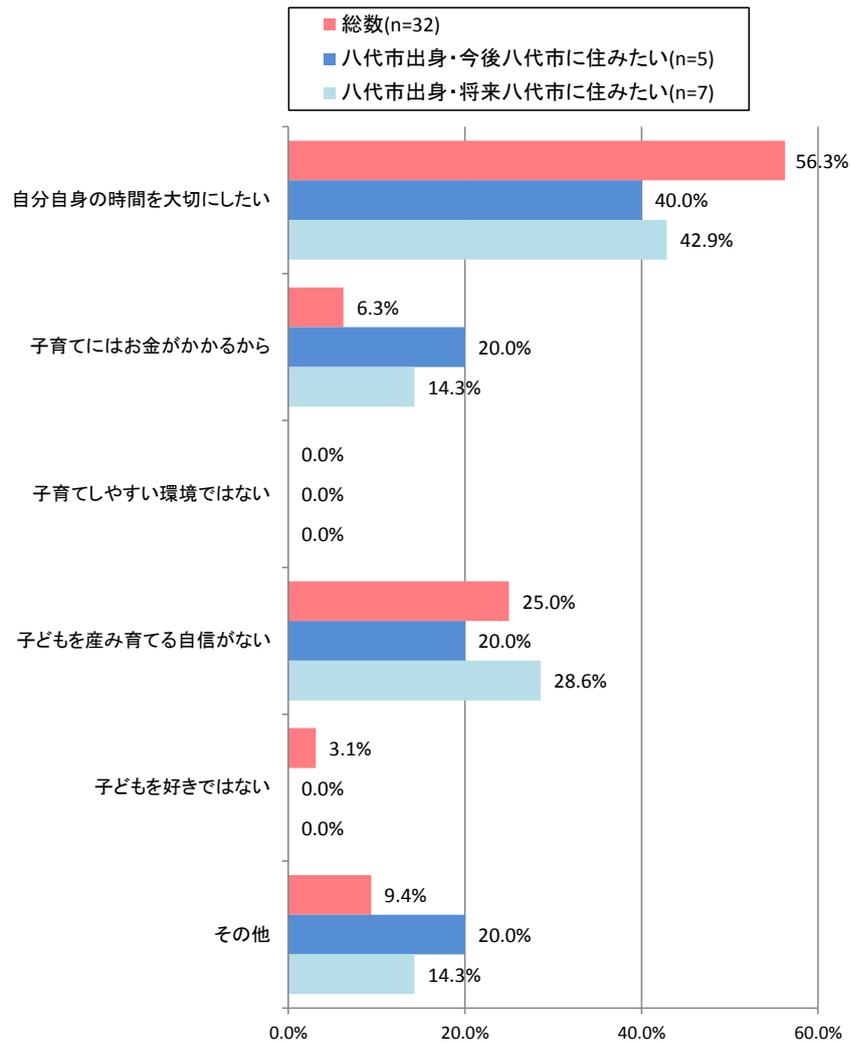
	子どもの数 平均
女性	2.2人
うち八代市出身・今後八代市に住みたい	2.3人
うち八代市出身・将来八代市に住みたい	2.1人

(3) 子どもをほしくない理由

●女性の子どもをほしくない理由としては、「自分自身の時間を大切にしたい」が最も多く(56.3%)、次いで「子どもを産み育てる自信がない」(25.0%)となっている。

子どもをほしくない理由 (問 10)

<女性>



(4) 仕事と子育ての意向

●女性の仕事と子育ての考え方としては、「子どもをもち仕事を続ける」が最も多く 53.8%であり、「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ」と回答したのは、31.1%みられる。

仕事と子育てに対する意向（問 11）

